

FAI スポーツ規定

# パラグライダー・アキュラシー競技

2012年5月1日施行

原題：

**FAI Sporting Code**

**Section 7C – Class O**

**PARAGLIDING ACCURACY**

**CLASS III**

2012 Edition

Effective 1st May 2012

Maison du Sport International

Avenue de Rhodanie 54, CH-1007 Lausanne – Switzerland

Tel : +41 (0)21 345 1070 – Fax : +41 (0)21 345 1077 – E-mail : [sec@fai.org](mailto:sec@fai.org)

Web : [www.fai.org](http://www.fai.org)

翻訳監修 社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟

2013年6月1日

FAI スポーティングコード-S7C 2012 年 5 月 1 日

訳者まえがき

映画「紅の豚」のモチーフになったと思われる「シュナイダーカップ・スピードレース」は、1910年代から 20 年代にかけてモナコやベネチアで開催されて全ヨーロッパの人々の注目を集めた。第二次世界大戦に使われた軍用機の基礎技術は、この項に生まれている。

今日、世界的な航空スポーツ人口の減少傾向を食い止めたい FAI（国際航空連盟）は、観衆の注目の中で行われるパラグライダー・アキュラシー競技に大きな期待を寄せている。

アキュラシー競技とは、一定の高度から目標地点のできる限り中心に着陸する競技で、中心に着地すれば 0 点で最高得点となる。このようにコンパクトかつシンプルな競技であるので、我が国でも今後普及することが期待される。

本書は、この競技の大会を FAI で国際的に公認してもらうためのスポーツ規定を翻訳したものであるが、国内大会の開催に当たっても参考になるところが多いと思われる。冒頭には細部項目まで含めた詳細な目次があるので、公認大会に関心がある場合、まず全文に眼を通し、次いで関心のある項目をていねいに読むのがよいと思う。

本規定の初版は 2004 年 5 月 1 日に発行され、2006 年版では大幅な追加・改訂がなされている。

今後もいろいろな改訂が行われることが予想されるので、私たちも注意を続け、変化があったときは遅れることなく対応したいと考えている。

翻訳： 日本ハング・パラグライディング連盟事務局  
2007 年 3 月 1 日

阿部郁重（監訳）  
東野武史

2013 年 6 月 1 日

2012 年版追訳監修  
岡 芳樹

編集者注: ハング・パラグライディングの FAI スポーツ規定は総則 (General Section) と第 7 節 (Section 7) からなる。この第 7 節に定められた具体的ルールの運用に当たって疑問が生じたときは、総則により基本方針を確認する。

ハンググライディングは、男子及び女子が共に参加するスポーツである。この文書全般にわたって「彼は」、「彼に」あるいは「彼の」との文言は特にことわらない限り両性に対し同等に適用されるものである。

FEDERATION AERONAUTIQUE INTERNATIONALE

Maison du Sport International-Avenue de Rhodanie 54 – CH-1007 Lausanne – Switzerland

---

Copyright 2012

著作権所有。この文書の著作権は FAI が所有するものである。FAI の名のもとで活動する者または FAI の会員は、下記条件のもとにこの文書を複製、印刷、配布することができる。

1. この文書は参考資料としてのみ使用可能であり、商業目的に利用してはならない。
2. この文書またはその一部を複製する場合は、この著作権についての注意を記入すること。

この文書に記載されたすべての内容、手順、技術は FAI または関連の者が所有する知的財産所有権下にあり、ここで他の者に資格を与えるものではない。

## FAI 国際スポーツ行事に対する権限

FAI スポーツ規定 (Sporting Code) のルールに全面的または部分的に基づき開催される国際スポーツ行事は、すべて FAI 国際スポーツ行事 (FAI International Sporting Events) とする。FAI 定款に基づき **FAI は、FAI 国際スポーツ行事についてのすべての権限を所有し管理する。** FAI 構成会員は、各々の国で FAI 国際スポーツ行事の FAI 当事者としての役割を果たさなければならず、その大会を FAI スポーツカレンダーに登録するものとする。

**この種の行事において、いかなる商業活動を行う権利を得ようとするオーガナイザーは事前に FAI と協定を結ばなければならない。** FAI が所有し、協定により行事オーガナイザーに移譲される権利はその行事における、またはその行事のための宣伝、行事の名称またはロゴの商品販売目的の使用および音声、映像、プログラム及び/あるいはデータ (電子的またはその他の方法で記録されたものまたはリアルタイムに伝えられるものを含む) の使用を含みかつそれらに限定されないものとする。このことは特に、FAI スポーツ行事に使われた審判、採点、成績評価のための方法またはシステムの一部を構成するソフトウェアを含む電子的その他の器材または情報の使用权を含む。

FAI のそれぞれの航空スポーツ委員会 (訳注: 例えば CIVL) は、各委員会が責任を負う種目の国際スポーツ行事 (ワールドエアーゲームを除く) に権限のすべてまたは一部の移譲について FAI 会員または適切な FAI 会員により権限を与えられた他の該当者と協議するか権利を放棄することができる。このような協定あるいは権利の放棄は全て適切な航空スポーツ委員会の委員長の了解の後、FAI 役員により署名されなければならない。

FAI スポーツ行事開催に関する責任を、同意書のあるなしにかかわらず引き受けた個人あるいは法人は、上述の FAI が持つ所有権を尊重するものとする。権利の委譲が書面により同意されていない場合、FAI は大会に関するすべての権利を留保する。いかなる協定あるいは権利の委譲にかかわらず、**FAI は FAI スポーツ行事に関連する音響および映像に関して記録保存や広報のために無償で使用する**ことができるものとする。また FAI は、そのような目的のためにオーガナイザーに対価を支払うことなく行事で記録され、撮影された全てを自信の費用でアレンジする権利を留保する。

---

目次

訳者まえがき

規定表題

FAI の著作権と権限

1	序文	1
1.1	解説	1
1.2	関連規定	1
1.3	総則	1
1.4	サブセクションのルール制定	1
1.5	ハンググライダーに関する一般規定	2
1.5.1	ハンググライダーの定義	2
1.5.2	ハンググライダーのクラス	2
1.5.3	パラグライダーフライトの開始	2
1.6	大会におけるフライトの定義	2
1.6.1	ランチ/テイクオフ(Launch/Take-Off)	2
1.6.2	フライト(A flight)	2
1.6.3	フリーフライト(Free flight)	2
1.6.4	ターンポイント(Turn point)	2
1.6.4.1	ターンポイント周回(Rounding the turn point)	2
1.6.4.2	ターンポイント・セクター(Turn points sectors)	3
1.6.5	指定周回順序(Designated sequence)	3
1.6.6	フライトの終了(Finish of flight)	3
1.6.6.1	ランディング(The Landing)	3
1.6.6.2	ターゲット・ランディング(Target landing)	3
2	CIVL 公認カテゴリー1 大会	3
2.1	一般規則	3
2.2	世界選手権および大陸選手権	3
2.3	開催権と開催公認申請	3
2.3.1	開催公認申請資格	3
2.3.2	予備申請(Preliminary Bids)	3
2.3.3	本申請 (Detailed Bids)	3
2.3.4	練習大会(Practice Event)	3
2.3.5	大会参加者の招待	4
2.4	開催運営全般	4
2.4.1	選手権におけるフライト	4
2.4.2	世界選手権または大陸選手権のタイトル	4
2.4.3	選手権の開催期間	4

2.4.4	最小参加数.....	4
2.4.5	公式練習期間.....	4
2.4.6	大会本部.....	4
2.4.7	ラウンド数.....	4
2.4.8	フライトの延長.....	4
2.4.9	ラウンドの有効性.....	4
2.4.10	抗議 (Protest) .....	5
2.4.10.1	ビデオによる検証.....	5
2.4.10.2	他のビデオによる検証.....	5
2.4.11	オーガナイザー.....	5
2.4.12	優勝者.....	5
2.4.13	FAI 金、銀、および銅メダル.....	5
2.5	ローカル・レギュレーション.....	5
2.5.1	ローカル・レギュレーション.....	5
2.5.2	参加申込用紙およびローカル・レギュレーション.....	6
2.5.3	タイムスケジュールの遵守.....	6
2.5.4	距離の測定.....	6
2.5.5	ローカル・レギュレーションの変更.....	6
2.6	オーガナイザーおよび委員長の責任.....	6
2.6.1	NAC.....	6
2.6.2	大会オーガナイザー.....	6
2.6.3	安全委員長(Safety Director)および安全委員会(Safety Committee).....	7
2.6.3.1	安全委員長.....	7
2.6.3.2	安全委員長の責任.....	7
2.6.3.3	安全委員会.....	7
2.6.4	プレ・フライヤー(Pre-flyers).....	7
2.6.5	救急に関する規定.....	7
2.6.6	重傷事故または重大事故発生時の行動.....	7
2.6.7	ビデオによる検証.....	8
2.7	プログラムと会場設備.....	8
2.7.1	情報の準備.....	8
2.7.2	ホームページ.....	8
2.7.3	式典.....	8
2.8	スチュワードと陪審(Jury).....	8
2.8.1	権限と役割.....	8
2.8.2	スチュワードの指名.....	9
2.8.3	国際陪審.....	9
2.8.3.1	陪審の指名.....	9
2.8.3.2	スチュワードの権限.....	9
2.8.4	大会中止の権限.....	9

2.8.5	陪審とスチュワードの費用	9
2.8.5.1	オーガナイザーの負担	9
2.8.5.2	CIVL の負担	9
2.9	チームリーダーの責任	10
2.9.1	連絡	10
2.9.2	権限	10
2.9.3	事故	10
2.10	保険	10
2.11	ゼッケン	10
2.12	選手登録と審査	10
2.12.1	出頭	10
2.12.2	適合検査	10
2.13	ブリーフィング	10
2.14	チームリーダー・ミーティング	11
2.15	競技運営上の規則	11
2.15.1	法令遵守	11
2.15.2	耐空性	11
2.15.3	飛行前点検	11
2.16	安全フライト	11
2.16.1	危険なフライト行為	11
2.16.2	ヘルメットとパラシュート	11
2.16.3	はきもの	11
2.16.4	健康状態	11
2.16.5	ハーネスその他の飛行装備品	11
2.16.6	薬物	11
2.16.7	パイロットの能力	12
2.16.8	衝突防止	12
2.16.9	雲中飛行	12
2.16.10	ラウンドの中断または中止	12
2.16.11	バラスト	12
2.17	大会サイトからのフライト	12
2.17.1	テストフライトと練習フライト	12
2.17.2	全てのフライトの禁止	12
2.18	選手への外部からの補助	12
2.18.1	無線機	12
2.19	休息日	13
2.20	ラウンドの開始	13
2.20.1	ランチ・インターバル	13
2.20.2	スタートリスト/飛行順序	13
2.20.2.1	最大限フライトする	13

2.20.2.2	最終ラウンド	13
2.20.3	新しいスタート・システムの提案	13
2.21	ラウンドの飛行	13
2.21.1	テイクオフのやり直し	13
2.21.1.1	テイクオフ困難	13
2.21.2	テイクオフ	14
2.21.3	パイロット・セパレーション(高度差)	14
2.21.4	ターゲット接近禁止の合図	14
2.21.5	ファイナル・アプローチの定義	14
2.21.6	リ・ランチ	14
2.21.6.1	風速	14
2.21.6.2	ターゲットの識別不能	14
2.21.6.3	ジャッジ間の不同意	15
2.21.6.4	安全上の理由	15
2.21.6.5	邪魔	15
2.21.6.6	ジャッジの裁量	15
2.21.7	制限風速	15
2.21.8	ターゲットの障害物	15
2.22	アウトランディング	15
2.23	フライト可能範囲	15
2.24	採点	15
2.25	スポーツマンシップに反する行為	15
3	カテゴリー1大会への参加	15
3.1	一般	15
3.2	国別参加	16
3.2.1	オーガナイザー	16
3.2.2	NACによる確証	16
3.2.3	女性選手	16
3.2.4	主催国のチーム	16
3.2.5	チームリーダー	16
3.3	参加資格	16
3.3.1	資格	16
3.3.2	大会役員	16
4	CIVL公認カテゴリー2大会	16
4.1	一般規則	16
4.1.1	整合性	16
4.1.2	用語	17
4.1.3	FAIの権限	17
4.1.4	大会の型式(Type)	17
4.1.5	スポーティング・ライセンス	17



4.2	要件	17
4.2.1	NACの権限	17
4.2.2	大会の通知	17
4.2.3	公認申請	17
4.2.4	大会の延期	17
4.2.5	外国選手の枠	17
4.2.6	ローカル・レギュレーション	17
4.2.7	サイトの要件	18
4.3	公認の認定要件(Validation)	18
4.3.1	最小参加選手数	18
4.3.2	最大参加選手数	18
4.3.3	最小ラウンド数	18
4.3.4	最大ラウンド数	18
4.4	大会結果	18
4.4.1	提出期限	18
4.4.2	結果の書式	18
4.4.3	結果の確定	18
4.5	ワールド・パイロット・ランキング・スキーム(WPRS)	18
4.6	不服申立て (Complaint)、抗議(Protest)、控訴(Appeal)	19
4.7	安全	19
5	採点方法およびターゲットの装備	19
5.1	採点	19
5.1.1	採点の記録	19
5.1.2	負傷パイロットの援助	19
5.1.3	採点表 (Score sheets)	19
5.2	採点方法	19
5.2.1	各パイロットの得点	19
5.2.2	自動計測装置(Automatic measuring device)	20
5.2.3	個人得点	20
5.2.4	チーム得点	20
5.2.4.1	小規模チーム	20
5.2.5	同得点	20
5.2.5.1	チーム	20
5.2.5.2	個人	20
5.2.6	点数の確定	20
5.3	ペナルティ・リスト	20
5.3.1	科せられるペナルティ	20
5.3.2	ペナルティの適用	21
5.4	ワールド・パイロット・ランキング・システム (WPRS)	21
5.5	ターゲット	21

5.5.1	位置—ヒル・ランチでのガイドライン	21
5.5.2	位置—トゥ/ウインチ・ランチでのガイドライン	21
5.5.3	計測装置	21
5.6	測定フィールド(Measuring field)	21
5.6.1	広さ	22
5.6.2	構造	22
5.6.3	立入制限	22
5.7	風向表示	22
5.8	風速レコーダー	22
6	選手権オーガナイザーのためのチェックリスト	22
6.1	準備	22
6.2	フライング・サイト	23
6.3	大会本部	24
6.4	ローカル・レギュレーションと FAI への報告	24
6.5	用紙とブリーフィング・ノート	24
7	公認料	25
7.1	カテゴリー 1 大会	25
7.1.1	公認料	25
7.1.2	初めての大会	25
7.1.3	支払方法と支払時期	25
7.2	カテゴリー 2 大会	25
7.3	料金の支払い	25
8	プレ・フライヤー(Pre-flyer)	26
8.1	目的	26
8.2	飛行のタイミング	26
8.3	身分と技能	26
8.4	他のフライヤー	26
8.5	競技委員長および安全委員長	26
9	ローカル・レギュレーション	26
9.1	目的	26
9.2	ルールの優先順位(Hierarchy)	27
9.3	フォーマット	27
9.4	サンプル	27
10	危険状態のパイロット援助の指針	40
10.1	競技中の救援活動	40
10.1.1	目的	40
10.1.2	大会本部の任務	40
10.1.3	負傷パイロットの義務	40
10.1.4	事故目撃パイロットの任務	40
10.1.5	本部の決定を待ち、その後:	40

10.1.6	本部と無線連絡がとれないとき	40
10.1.7	負傷パイロットに到達後、本部に伝えるべき情報	41
10.1.8	負傷パイロットの保護と救助	41
10.1.9	発見後	41
11	参加者の態度に関する指針	41
11.1	指針	41
11.2	手続	41
11.3	軽度の反抗	42
11.4	重度の反抗	42
11.4.1	罰則（厳格度順に）	42
12	装備の安全基準および証明書類	42
12.1	パラグライダーおよび関連装備品	42
12.1.1	パラグライダーその他	42
12.1.2	競技用グライダー	42
12.1.2.1	クラス	42
12.1.2.2	耐空性	42
12.1.2.3	構造	43
12.1.2.4	プロトタイプ・グライダーの判別と必要書類	43
12.1.3	グライダーの構造	43
12.1.4	競技グライダーの損傷	43
12.1.5	耐空性のチェック	43
12.1.6	チェックの手順	43
12.2	パラグライダー・ライン強度証明書	44
12.3	その他の装備	44
12.3.1	ハーネス	44
12.3.2	ヘルメット	45
13	ジャッジング	45
13.1	ジャッジング・コード	45
13.2	ジャッジング・チーム	45
13.2.1	構成	45
13.2.2	指名	45
13.2.3	ジャッジング・チームの選考	46
13.2.4	経験レベル	46
13.2.5	言語能力	46
13.2.6	指名の取り消し	46
13.3	責任	47
13.3.1	ターゲット・ジャッジ	47
13.3.2	イベント・ジャッジ	47
13.3.3	チーフ・ジャッジ	47
13.3.4	危険な状況の合図	48

13.4	ジャッジ用装備	48
13.4.1	ウェア	48
13.4.2	メジャー	48
13.4.3	通信	48
13.4.4	避難所	48
13.5	支援役員	48
13.5.1	レコーダー	48
13.5.2	風速モニター	48
13.5.3	テイクオフ・マーシャル	48
13.6	ジャッジ・トレーニング	49
13.6.1	プログラム	49
13.7	ジャッジ・データベース	49
13.7.1	ジャッジ・ログブックおよびデータのチェック	49
14	抗議(プロテスト)申立準備	49
14.1	ルールの優先順位	49
14.2	手順	50
14.3	陪審の役割	50
15	カテゴリー1大会における表彰式	50
15.1	序言	50
15.2	表彰式の手順	51
15.2.1	準備	51
15.2.2	授与する順序	51
15.2.3	手順	51
15.2.4	FAI 賞状	52
15.2.5	付添い人	52

## 1 序文

### 1.1 解説

スポーツ規定の Section 7 は、すべてのクラスのハンググライダーおよびパラグライダーの記録、技能記章、世界選手権 (World Championship) および大陸選手権 (Continental Championship) について規定する。

FAI が公認して行われるすべての競技は、Section 7 に述べられているクラスの定義と安全基準に厳格に従うものとする。

### 1.2 関連規定

Section 7 はスポーツ規定の総則(General Section)とともに運用されること。疑念が生じたときは総則が優先する。Section 7 は、読みやすくまた所掌する種々の種目を明確化するため 4 つのサブセクションに分けられている。

- A) ハンググライディング (クラス 1、2、4 および 5 とし、短距離スピード競技および曲技飛行を含む)
- B) パラグライディング (クラス 3、但しアキュラシーを除き曲技飛行を含む)
- C) パラグライディング・アキュラシー
- D) 記録および記章 (全クラス)

注：カテゴリー 1 の大会が定期的にあるいは頻繁に開催されるようになったときは、曲技飛行やスピード滑空といった副種目を扱うサブセクションを将来設定することが考えられる。

### 1.3 総則

総則では下記項目について詳述されている。

- FAI の権限と責任 (第 1 章)
- 定義 (第 2 章)
- 罰則—異議申し立て (第 5 章)
- スポーティング・ライセンス (第 8 章)
- FAI に対する控訴 (第 9 章)

総則は下記についての基本方針も記述している。

- 競技会 (第 3 章)
- オブザーバーおよび大会役員 (第 4 章)
- 世界記録 (第 6 章)
- フライトの成績測定およびその管理 (第 7 章)

この Section 7 はパラグライダーに関する上記についての細則である。

### 1.4 サブセクションのルール制定

サブセクションのルール制定に当たっては、原則はどの種目も共通とする。ただし、クラスによっては基本的な違いがあつて共通にできないとき、または種目によってカテゴリー 1 の従来のフォーマットでは適応できないときはこの限りではない。

## 1.5 ハンググライダーに関する一般規定

### 1.5.1 ハンググライダーの定義

総則においてハンググライダーは、手で持ち、パイロットの足のみで離陸、着陸が可能なグライダーと規定している。

### 1.5.2 ハンググライダーのクラス

・クラス1：剛性のある基本構造を持ちパイロットの体重移動のみを操縦手段とするハンググライダーで、無風条件下において常に安全な離陸、着陸を実証できるもの。トリムや抗力を調整する補助的操縦装置は許されるが左右対称に作動する場合のみとする。

・クラス2：剛性のある基本構造を持ち、操縦手段として空力的効果のある可動舵面をそなえたハンググライダーで、無風条件下において常に安全な離陸、着陸を実証できるもの。

・クラス3：剛性のある基本構造を持たないハンググライダー（パラグライダー）で、無風条件下で常に安全な離陸、着陸を実証できるもの。

注：パラグライダーのライン強度規定は第12章に記述。

・クラス4：無風条件下では安全な離陸、着陸を実証できないが、その条件がなければパイロットの足で離着陸可能なハンググライダー。

・クラス5：剛性のある基本構造を持ち、ロール軸の基本操縦装置として空力的効果のある舵面を備え、無風条件下で常に安全な離着陸を実証できるハンググライダー。パイロット用のフェアリングを備えることは認められない。ハーネスおよびコントロールフレームから離れたパイロットを囲む構造物も許されない。

### 1.5.3 パラグライダーフライトの開始

パラグライダーは丘から自分の足で、または機械的装備品(エアロトウ、ウインチなど)で離陸するものとする。ただし普通の人にはそれがなくても操縦ができるという条件のもとに、身体障害者は、車輪または同様の装置を使って離着陸してもよい。

## 1.6 大会におけるフライトの定義

ここでの定義は総則での定義に優先する。

### 1.6.1 ランチ/テイクオフ(Launch/Take-Off)

パラグライダーとパイロットのすべてが地面または水面との接触または接続を終わった地点または時間。

### 1.6.2 フライト(A flight)

離陸(1.6.1)で始まり着陸(1.6.6.1)で終わるパラグライダーの飛行。

### 1.6.3 フリーフライト(Free flight)

他の航空機または別個の外部または投下可能な動力源で牽引されまたは運ばれ（訳注：動力飛行）または助けられていない飛行の部分。

### 1.6.4 ターンポイント(Turn point)

地上の明確な特徴またはGPS座標。テイクオフ前に明確に提示。

#### 1.6.4.1 ターンポイント周回(Rounding the turn point)

パラグライダー全体がターンポイント箇所の垂直投影の外側を通過したとの観測がなされたときまたは指定されたセクターに入ったことが証明できたとき。

#### 1.6.4.2 ターンポイント・セクター(Turn points sectors)

ターンポイントのシリンダーは GPS 座標と半径で指定される。記録距離は指定されたセクターに入  
って可能な最短距離とする。

#### 1.6.5 指定周回順序(Designated sequence )

ターンポイントまたはコントロールポイントを飛行する際の指定された順序。

#### 1.6.6 フライトの終了(Finish of flight )

##### 1.6.6.1 ランディング(The Landing)

パイロット、その装備品(スピードバー、フットバーまたはトウヨークを除く)または翼などのどこか  
が最初に接地した地点。

##### 1.6.6.2 ターゲット・ランディング(Target landing)

パイロットの足の最初の接地点からターゲットの中心までの距離を cm で計測するランディング。

## 2 CIVL 公認カテゴリー 1 大会

### 2.1 一般規則

カテゴリー 1 大会に関する一般規則は FAI スポーツ規定の総則と Section 7 で述べられている。ロー  
カル・レギュレーションは開催される大会だけのものであり Section 7 に抵触せず、CIVL の承認を受  
けた後は変更してはならない。

カテゴリー 1 の大会とは、世界選手権、大陸選手権およびワールドエアゲームである。

### 2.2 世界選手権および大陸選手権

この選手権の目的は、安全、公正かつ満足な飛行を提供して、各クラスの世界チャンピオンまたは大  
陸チャンピオンを決定し、世界各国からのパイロット間の友情を深めることである。

### 2.3 開催権と開催公認申請

#### 2.3.1 開催公認申請資格

世界選手権または大陸選手権は、CIVL がその大会を運営する能力があると認めた NAC によつての  
み開催される。公認申請をする NAC は、少なくとも申請が受理される前 4 年以内に開催予定地で参加  
者 50 人以上の国内選手権または FAI カテゴリー 2 の競技会開催の実績がなければならない。申請が受  
理されるためには、CIVL 認定のオブザーバーが、そのような大会に過去に参加しているか招待が予定  
されていないなければならない。

#### 2.3.2 予備申請(Preliminary Bids)

予備申請は、大会開催予定の 3 年前に CIVL に提出しなければならない。

#### 2.3.3 本申請 (Detailed Bids)

予備申請の後、開催予定 2 年前に本申請を CIVL に提出する。事前に承認を受けていない選手権であ  
っても少なくとも申請とその大会との間に 1 年の期間がなければならない。

#### 2.3.4 練習大会(Practice Event)

開催者 (オーガナイザー) はカテゴリー 1 大会 1 年前で、可能な限り開催予定日に近い日に、開催地  
で練習大会を開催しなければならない。CIVL は、この大会に出席して大会運営方法や開催地の環境に  
ついて必要と思われる修正事項を報告するスチュワードを任命する。

### 2.3.5 大会参加者の招待

CIVL が選手権開催を公認した後、オーガナイザーはできる限り早く各国の NAC に返信用紙を添えて大会参加の招待状を発送しなければならない。

## 2.4 開催運営全般

### 2.4.1 選手権におけるフライト

大会におけるフライトは競技規定（総則および Section 7）の規則および第 9 章ローカル・レギュレーションの様式でその大会のために作成し公表したローカル・レギュレーションに従って管理されるものとする。

### 2.4.2 世界選手権または大陸選手権のタイトル

世界選手権または大陸選手権のタイトルを認められるためには下記の項目に合致していなければならない。

### 2.4.3 選手権の開催期間

選手権の開催期間は、開会式および閉会式の日を含めて 14 日以内とする。この期間中、参加選手はタスクフライトをするしないに関わらず、選手権でのフライトに関連する全ての規則に従わなければならない。

### 2.4.4 最小参加数

各クラスとも、世界選手権のタイトルを認定されるためには大会期間中少なくとも 4 か国、合計 8 選手の参加が必要であり、大陸選手権の場合は少なくとも 3 か国、合計 8 選手の参加が要求される。

### 2.4.5 公式練習期間

天候の許す限り競技開始前に最低 1 回の練習ラウンドを行う。このラウンドは、その結果が選手権に反映されないことを除き、大会と同じ条件で設定され、フライトし得点計算がされる。その目的は、選手が大会の運営方法に慣れると同時にオーガナイザーのあらゆる側面をすっかりテストするものでもあるので全ての大会役員はこのラウンドに参加しなければならない。

全てのテストイベント（プレ・ワールド・エアゲームを含む）のオーガナイザーは、それらのイベントをカテゴリ 2 として公認を取らなければならない（第 4 章）。

### 2.4.6 大会本部

選手登録が開始される前に、大会本部を設置し参加パイロット向け資料の準備を完了していなければならない。

### 2.4.7 ラウンド数

開催期間内に最大では 12 ラウンドを行うこととし、選手権成立のためには有効な 3 ラウンドが行われなければならない。

### 2.4.8 フライトの延長

悪天候が続いた場合、選手権を成立させるために表彰式に当てられた日に競技を行って完了してもよい。しかし大会開催期間の延長は認めない。

### 2.4.9 ラウンドの有効性

選手権のラウンドとして認められるには、参加選手全員が各ラウンドで最低 1 回のフライトを行う機会を与えられなければならない。ラウンドが完了したときのみ（即ち全選手が点数あるいは罰則を受け取ったとき）その回のラウンドの結果が選手個人およびチームの得点として採用される。ラウンドの途中で中断された場合、そのラウンドは中断したところから再開する。



#### 2.4.10 抗議 (Protest)

抗議は CIVL によって任命された異なる国の 3 名からなる国際陪審(International Jury)によって処理される。抗議の期限と抗議料はローカル・レギュレーションに明記する。抗議が受け入れられたときは抗議料が払い戻される。抗議料は 50 米ドルまたは 50 ユーロのどちらか高い方を超えてはならない。

##### 2.4.10.1 ビデオによる検証

陪審は判定作業にビデオによる証拠を利用することができる。このような例はその後の抗議に対する前例となるものではない。オーガナイザーによるランディングのビデオが入手できないあるいは明確ではないとしても、それがリフライトを与える理由にはならない。抗議をする選手は目撃者証言による事実を頼らなければならない。

##### 2.4.10.2 他のビデオによる検証

不服申し立てあるいは抗議が出された場合に素人が撮影したビデオの扱い方針に関してジャッジング・チームおよび競技委員長を考慮してローカル・レギュレーションに明記しなければならない。

#### 2.4.11 オーガナイザー

オーガナイザーは国際陪審およびスチュワードの交通、宿泊、食事および飲み物について責任を負う。

#### 2.4.12 優勝者

最も低い総合点を取得したパイロットが優勝者となる。チーム優勝は、該当する採点規則に従って最も低い合計点数を取得したチームに与えられる。

#### 2.4.13 FAI 金、銀、および銅メダル

各クラスの 1 位、2 位、3 位を獲得したパイロットに授与され、1 位から 10 位までのパイロットには FAI の賞状が授与される。FAI メダルは 1 位、2 位、3 位に入賞したナショナル・チームにも授与され、CIVL が決定した場合は小型の FAI メダルがそれらのチームの選手全員に授与される。規定寸法の FAI メダルおよび小型サイズの FAI メダル最大 6 プラス 2 個までの費用を CIVL が支払う。オーガナイザーは送料と関税を支払う。

オーガナイザーはこれとは別にトロフィーや賞品を授与してもよい。

第 15 章に表彰式に関する取り決めが記載されている。

### 2.5 ローカル・レギュレーション

#### 2.5.1 ローカル・レギュレーション

ローカル・レギュレーションとは、オーガナイザーがそれぞれの大会用に準備し CIVL の承認を得たルールである。第 9 章の様式で大会開催の少なくとも 8 か月前に、CIVL 会長宛に送らなければならない。この承認作業には大会に出席するスチュワード全員が参加する。CIVL が承認する前にオーガナイザーが発行した全てのローカル・レギュレーションは、その旨を明確かつ目立つ方法で記載しなければならない。同時に大会参加申込用紙とともに予定参加費用とその内容を CIVL に提出する。参加費用には少なくとも下記のものを含めなければならない。

- すべてのテイクオフおよびランディング・フィールド、車両の進入経路、規制空域および規制地域を明確に示した適切な縮尺のローカルマップまたは航空地図
- コンテストナンバー、認識票その他競技に必要なすべての文書
- 各フライング・デーにおける本部または予め決められたピックアップ・ポイントからテイクオフ・ポイントまでのグライダーとパイロットの輸送費

最低限必要と思われる金額をパイロットが追加負担をすることで、オーガナイザーは次のサービスを提

供する：

- ・ 練習日にテイクオフへまたからのグライダーとパイロットの移動
- ・ 指定した道路に沿ったアウトランディングの回収
- ・ 各フライング・デーにおける昼食弁当またはレストランのクーポン（ベジタリアンのオプションを含む）

### 2.5.2 参加申込用紙およびローカル・レギュレーション

参加申込用紙は、承認済みのローカル・レギュレーションと選手のための資料とともに大会開催日の少なくとも 5 ヶ月前に CIVL のホームページに掲載され、各国代表に通知される。オーガナイザーはこれらの資料を追加的に FAI 会員組織に直接送ってもよい。選手権会場に到着した選手たちに追加の資料を配布してもよいが、競技ルールに変更をもたらす場合は必ず CIVL ビューローの承認を得ていなければならない。

### 2.5.3 タイムスケジュールの遵守

タイムスケジュールが守られなかったときまたは決められた手順どおりに実施できなかったときはその大会は正式なものとして認められないことがある。

### 2.5.4 距離の測定

カテゴリー 1 イベントにおけるローカル・レギュレーションおよびタスク・ブリーフィングでの距離の測定単位はメートルとする。

### 2.5.5 ローカル・レギュレーションの変更

ローカル・レギュレーションが承認（CIVL により）された日から大会が開始されるまでの間に公表されたスポーティング・コードのルール変更に基づいて必要ならば、オーガナイザーはローカル・レギュレーションを変更しなければならない。公表されたルールや規則は、追加されたものも含めて競技が正式に開始された後に変更することはできない。大会の途中でルールに追加があった場合、さかのぼって適用してはならない。ローカル・レギュレーションへの追加は CIVL スチュワードおよび陪審長の承認が必要であり、参加チームリーダーの過半数の支持を得なければならない。小さいあるいは必要不可欠のものだけがこのように取り扱われる。

## 2.6 オーガナイザーおよび委員長の責任

### 2.6.1 NAC

選手権を開催する NAC は、CIVL が同意する競技委員長(Competition Director)を開催 6 か月前までに指名する。競技委員長の交代は CIVL ビューローの承認がなければならない。競技委員長は、日々のサイトの選定を含む大会運営全般について責任を負うものとする。下記項目においても責任を持つ。

- ・ 競技初日のブリーフィング開始前までに最終参加選手のリストと飛行順序を発表する
- ・ 各ラウンドの結果を遅滞なく発表する
- ・ 抗議や発生した重大な問題を含むすべての大会結果を NAC に報告、写しを FAI および CIVL に提出する

### 2.6.2 大会オーガナイザー

プレ大会(pre-competition)終了後、その変更が望ましくないことを説明した書面を提出しない限りオーガナイザーはスチュワードが要請した変更を受け入れなければならない。オーガナイザーと CIVL との間の最終協定書には最低必要とする競技スタッフの人数が記載される。オーガナイザーは CIVL の専門家が薦める安全対策を実施しなければならない。競技開始前の総会で CIVL ビューローはオーガナイ

ザーと要求事項を討議する。オーガナイザーが要求された項目を実行しない場合には、陪審長は要求された項目が実行されるまで大会を中断することができる。

大会オーガナイザーは、参加選手の規準に関して第 3.3.1 項参加資格に従わなければならない。

### 2.6.3 安全委員長(Safety Director)および安全委員会(Safety Committee)

#### 2.6.3.1 安全委員長

大会オーガナイザーは、CIVL ビューローが承認する、その唯一の責任が安全である安全委員長を指名しなければならない。その安全委員長が適任であるかはプレ大会後にスチュワードにより検討されビューローにより代替を要求されることがある。安全委員長は、英語および地元の言語により意思疎通が出来なければならない。常設の安全チャンネルおよび個別の電話番号を彼が使用できるようにしておかなければならない。安全委員長は、使用されるサイトにおける知識及び経験を持っていなければならない。理想としては適切な大会経験を持っていなければならない。

#### 2.6.3.2 安全委員長の責任

安全委員長は安全に関する全ての事柄を監視する責任がある。それらに含まれる事柄は以下の様なものを含むがそれに限定されるものではない: 風速、不都合な気象条件、空中での混雑および危険な往来。さらなる義務としては、選手が危険な装備で飛ぶことを防ぐことである。選手権のフライトが始まる前に全選手に参加が強制となる安全ブリーフィングを行わなければならない。安全委員長は、事故報告書を収集し、スチュワードと共に事故に付いて討議し、選手ブリーフィングで結論を発表しなければならない。

#### 2.6.3.3 安全委員会

安全委員会が設置されなければならない。安全委員会の役割はフライト状況を監視し、フライト条件がテイクオフ、飛行コースまたはターゲット上で危険性が見られたときに競技委員長に報告することである。安全委員会には以下の者が含まれる: 競技委員長あるいは副競技委員長、テイクオフ・マーシャルあるいは副テイクオフ・マーシャル、ジャッジング・チームの上級メンバーおよび経験豊富な参加選手2名、その内の1名は主催国の選手とする。競技委員長がフライト条件の安全か危険かの判断に責任を持つ一方、安全委員会は安全性に関する判断においてのチェックアンドバランスの役割を果たす。パイロットの安全についての最終的な責任はパイロット自身の判断にあり、競技委員長または安全委員会の行動あるいは決定によって保障されるものではない。

### 2.6.4 プレ・フライヤー(Pre-flyers)

経験をつんだプレ・フライヤーを確保しなければならない。詳細は第 8 章を参照。

### 2.6.5 救急に関する規定

競技中、適切な医療器具を準備した救急医または医療専門家をテイクオフ地点とターゲット地点に配置する。少なくとも1名は英語が話せなければならない。救急車またはヘリコプターのような救急輸送の対応時間と最寄りの病院までの所要時間を大会公認申請書およびローカル・レギュレーションに明記しておく。パラグライディング・アキュラシー小委員会は、カテゴリー1大会の申請を承認する際に、ヘリコプターによる救助が必要であるかどうかを決定する。

### 2.6.6 重傷事故または重大事故発生時の行動

オーガナイザーは、“FAI エアスポーツ行事における重傷または重大事故発生時のガイドライン”に示された手順に従うものとする。この行動指針はカテゴリー1大会のオーガナイザーに FAI から送られる。

## 2.6.7 ビデオによる検証

カテゴリー 1 イベントに於いてオーガナイザーは、測定フィールドに於いてランディングのビデオを固定あるいは移動カメラで撮影しなければならない。録画されたビデオは以下の条件のもとに追加的検証物として扱われる：

- ー陪審が抗議を処理する際に見ると決定した場合、あるいは
  - ーチーフ・ジャッジが不服申し立てを受理した場合あるいはイベント・ジャッジから要求があった場合に見ると決定した場合。
- 第 2.4.10 項も参照のこと。

## 2.7 プログラムと会場設備

### 2.7.1 情報の準備

オーガナイザーは選手権を成功裏に運営できるような設備を準備し、できる限り早期に次に述べる情報を適宜配布する。

- ・ 開催日時を明記した選手権プログラム
- ・ 競技委員長、陪審、スチュワード、チーフ・ジャッジ及びイベント・ジャッジを含む主だった役員の氏名
- ・ 医療、安全面の手配、修理用設備、および情報伝達方法など大会運営全般に関する情報
- ・ 天気図や気象衛星画像などによる毎日の予報を含む気象施設
- ・ 規制空域および考慮に入れるべき危険場所または状況
- ・ プレスおよび来客用の施設を含む宿泊および食事の手配
- ・ 使用する飛行場およびヒルサイトの見取り図。テイクオフとターゲット・エリアの場所、管理本部、駐車場および参観者用の場所を記載したもの
- ・ 参加選手が用意すべき書類と装備のリスト
- ・ 希望者に配布する暫定参加選手リスト
- ・ 英語以外に可能な言語および通訳設備の詳細

### 2.7.2 ホームページ

オーガナイザーは、遅くとも選手権開始 6 か月前に大会のホームページを開設しなければならない。そこには 2.7.1 に記載した情報、選手権の参加に必要な事項、申し込みの締め切りおよび手続きの詳細が掲載されていなければならない。ローカル・レギュレーションのコピーがそこからダウンロードされるようになっていなければならない。FAI/CIVL のホームページにもそれへのリンクが貼られる。もしローカル・レギュレーションが CIVL により承認される前に公表される場合には、「CIVL による承認を受けていない」と明記しなければならない。

### 2.7.3 式典

開会式のプログラムはチームリーダーが到着したときに配布する。閉会式および表彰式のプログラムは式の少なくとも 4 日前に配布する。

## 2.8 スチュワードと陪審(Jury)

### 2.8.1 権限と役割

詳細は総則に記載。(訳注・スチュワードは競技委員長のアドバイザーでまた陪審を補佐する。陪審は抗議の取扱い及び競技進行状況のモニターをする。)

## 2.8.2 スチュワードの指名

CIVL は選手権の必要に応じてオーガナイザーと協議の上、1 名または複数のスチュワードを指名する。予想参加選手が 100 名を超える場合は最低 2 名が必要とされることもある。スチュワードは異なる国籍の者とし、CIVL ビューローが特に承認した場合を除き、オーガナイザーと同じ国籍の者であってはならない。指名されたスチュワードが大会直前に欠席となったときは、陪審長の同意の下に国籍を問わず代理を要請することができる。スチュワードは英語を話す能力があり、できればオーガナイザーの国の言語を話せること。国際 FAI パラグライディング・アキュラシー大会での経験があることが推奨される。競技中は各サイトに最低 1 名は配置されなければならない。

## 2.8.3 国際陪審

### 2.8.3.1 陪審の指名

CIVL は国籍の異なる 3 名の国際陪審を指名する。陪審は CIVL ビューローの承認がない限り開催国のメンバーであってはならない。

### 2.8.3.2 スチュワードの権限

スチュワードは競技委員長の決定をくつがえすことはできないが、委員長の行動が抗議に対し敗北する可能性がある場合は指摘しなければならない。

## 2.8.4 大会中止の権限

スチュワードは、ルールが守られていないときは陪審長に報告しなければならない。陪審長(Jury President)は総則の規則に基づいて大会を一時的に中止することができる。

## 2.8.5 陪審とスチュワードの費用

### 2.8.5.1 オーガナイザーの負担

オーガナイザーは国際陪審とスチュワードの移動手段、宿泊、食事、飲み物を手配する。移動手段については FAI 事務局に相談し同意を得て調整する。これらの最低基準は下記の通り。

- ・ 2 ツ星クラスのホテルの個室で、気温が 30° 以上になる場合にはできればエアコンつきとする。
- ・ 陪審とスチュワードに適した専用の交通手段。プレ大会でスチュワードの異議がない限り適宜使用できる車 2 台とする。この交通手段は完全なる事故責任賠償保険が掛けられているか、そのような費用をオーガナイザーが陪審およびスチュワードに保障しなければならない。

オーガナイザーはプレ大会に於けるこれらの費用を負担しなければならないが、場合によってはスチュワードあるいは CIVL ビューローにより指名された適切な者が再訪問する際の費用も負担しなければならないこともある。この再訪問は、プレ大会後不可欠と見なされた事柄が適切に処理されていることを確認することが必要であるとビューローが承認して行われる。

### 2.8.5.2 CIVL の負担

CIVL は、スチュワードに対しカテゴリー 1 イベントおよび承認されたプレ大会におけるスケジュールに掲載されている大会日数に大会開始前の 2 日を含む日数、最大 16 日に対し 1 日 50 ユーロを支払う。CIVL はカテゴリー 1 イベントにおける国際陪審メンバーにスケジュールに掲載された大会日数、最大 14 日に対し 1 日 25 ユーロを支払う。この俸給はリモート陪審には適用されない。オーガナイザーは、もはや陪審メンバーに対し 1 日 10 ユーロの俸給を支払う必要は無い。これらの俸給は、正しく記入された費用明細書を FAI 事務局に提出し現行の CIVL の方式に則り承認された後支払われるものとする。

## 2.9 チームリーダーの責任

### 2.9.1 連絡

チームリーダーはオーガナイザーとチームとの連絡役となり、選手が病気あるいは負傷して他の選手を危険にさらすような場合にフライトさせないこと、また選手にルールを理解させるなどチーム・メンバーが適切に行動することに責任を持つ。

### 2.9.2 権限

チームリーダーはチームのメンバーを大会から排除する権限を持つ。

### 2.9.3 事故

各チームリーダーは、メンバーにかかわる事故が発生したときは、安全委員長に報告書を提出する責任がある。各チームリーダーは、FAIの資料“FAI エアスポーツ行事における重傷または重大事故発生時のガイドライン”の内容をよく知っていなければならない。これはFAIのウェブサイトから入手できる。

## 2.10 保険

参加申込書またはローカル・レギュレーションでオーガナイザーが規定した保険に入っていることを証明する書類を、競技サイトからフライトする前にオーガナイザーに提示しなければならない。

## 2.11 ゼッケン

オーガナイザーは、競技に参加する各グライダーとパイロットに番号を割り当てる。番号を貼り付けまたは表示する方法はローカル・レギュレーションに規定する。グライダーの識別は現地選手登録時にグライダー製造者、タイプおよびカラー、あるいはステッカーを記録して行う。その方法はローカル・レギュレーションに明記する。番号表示の要求に対応しない場合はルール違反となり罰則を科せられる。

## 2.12 選手登録と審査

### 2.12.1 出頭

大会開催地に到着し次第、各チームのリーダーとチーム・メンバーは登録受付事務所で書類の点検を受け追加された規則や情報を受け取る。登録受付を終わった時点で選手権が正式にスタートすることになる。

### 2.12.2 適合検査

全てのグライダーは、登録受付時にフライトする状態で、適合検査を受けなければならない。競技開始日の第1ラウンドを終わった後は、パイロットもグライダーも変更することはできない。但し第12.1.4項(競技用グライダーの損傷)の条件に適合する場合はこの限りではない。

## 2.13 ブリーフィング

競技委員長は毎日の競技開始前にチームリーダーや選手たちにブリーフィングを行い、気象や競技運営に関するすべての情報を伝達する。気象、空域情報および特別な注意事項は文書にして配布する。できれば選手からの質問に答えられる気象専門家による気象に関する解説が行われる。

ブリーフィングで伝達される安全フライトに関する注意事項はレギュレーションと同等になる。

天候が良くない場合はブリーフィングを予定時刻より遅らせることが許され、必要に応じて更にブリーフィングを行う。

全てのブリーフィングは英語によってのみ行う。

## 2.14 チームリーダー・ミーティング

毎日開催されるブリーフィングに加えオーガナイザーと選手との間のコミュニケーションは通常、チームリーダーズ・ミーティングによって行われる。これは競技委員長の意向によって開催されるが、5人以上のチームリーダーが要求した場合は18時間以内に召集されるものとする。

## 2.15 競技運営上の規則

### 2.15.1 法令遵守

各選手は、選手権開催国の法律と航空法令を守ることが要求される。

### 2.15.2 耐空性

各グライダーは、耐空証明に記載されている限界またはフライト許可およびメーカーが公表している運用限界の範囲でフライトされなければならない。他の選手や一般の人に危険を及ぼすような操作や許可されていない曲技飛行は禁止する。

### 2.15.3 飛行前点検

パイロットは飛行前にグライダーの点検を行い、使用可能状態にない場合はフライトしてはならない。パイロットはハーネスの全てのベルトが正しく締結され、ライザーおよびラインにねじれがないことを確認する。

## 2.16 安全フライト

### 2.16.1 危険なフライト行為

常に自分および他の人々の安全が確保されるようなフライトを行うことはすべてのパイロットの責任である。各委員長はこれに反する選手に罰則を与えるか競技の成績からその選手を除外することができる。

### 2.16.2 ヘルメットとパラシュート

ヘルメットは必ず着用し、カテゴリー1イベントに於いては EN966 スタンダードを取得しているものでなければならない。パイロットはローカル・レギュレーションで特に規定された場合を除き、使用可能なレスキューパラシュートを携行しなければならない。第12章の装備品スタンダードを参照すること。安全性に関する詳細事項はローカル・レギュレーションに記載する。

### 2.16.3 はきもの

正常な風の条件下で安全に着陸できるものでなければならない。かかとと靴先に自動計測装置を損傷する恐れがあるような改造が加えられていてはならない。

### 2.16.4 健康状態

パイロットが健康でない場合はフライトすることができない。空中での操作に影響を与えると思われる怪我、くすりや薬物治療はフライト前に競技委員長に報告しなければならない。

### 2.16.5 ハーネスその他の飛行装備品

第12.3.1項を参照のこと。

### 2.16.6 薬物

運動能力を高める薬物の使用は禁止する。総則第3.11.2項を参照。

### 2.16.7 パイロットの能力

競技委員長及び安全委員長は共にスチュワードの同意を得て、安全にテイクオフし、フライトシランディングする必要な能力を欠いている選手を選手権から排除する権利を有する。

### 2.16.8 衝突防止

選手は常に国際的なルール（ICAOにより公表されている）に従うこと。リッジソアリング、旋回と着陸のパターンはそのルールを守り、常に適切な他機警戒を行うこと。同じサーマルに入るときは高度差があっても先に入っているグライダーと同じ方向に旋回する。第 2.21.3 項(他のパイロットとのセパレーション)を参照。

空中衝突によりグライダーが構造的に不安をきたしたときは、そのフライトを続行してはならない。

### 2.16.9 雲中飛行

雲中飛行は禁止とし、地上が見えなくても飛行ができるようにするジャイロ計器その他の装備品を装備してはならない。オーガナイザーはこの禁止措置で型式や名称を具体的に指定することができる。雲中飛行が証明された場合にはペナルティが科せられる；最初の違反にはそのラウンドに最高点を与え、それ以降の違反には大会からそれ以降除外される。

### 2.16.10 ラウンドの中断または中止

競技委員長は安全確保のため条件が適さなくなったときはテイクオフを中断することができる。テイクオフを再開するときは、通常、中断したところからそのラウンドを続ける。

中断時間が長くなったときは、ローカル・レギュレーションに従って最初にプレ・フライヤーが飛ぶ。

### 2.16.11 バラスト

競技参加グライダーは細かい砂または水であれば投下可能なバラストとして搭載することができる。他のグライダーや第三者に悪影響を与えるような方法でバラストを投下することは避けなければならない

## 2.17 大会サイトからのフライト

### 2.17.1 テストフライトと練習フライト

選手は競技委員長の許可なしに競技が行われるエリアで競技開催日にテイクオフしまたターゲットに近づいてはならない。この許可のもとにテストフライトする場合もターゲットに接近してはならない。競技飛行中止中に競技委員長は選手の飛行を許可することができるが、この場合もターゲットへの進入を試みてはならない。選手はプレ・フライヤーとして飛行してはならない。

### 2.17.2 全てのフライトの禁止

競技委員長及び安全委員長は共に、あるラウンドあるいはある日が危険な条件のため中止となった場合に大会サイトからのフライトを禁止する権利を保有する。

## 2.18 選手への外部からの補助

下記の制約は、各パイロットが外部からの助けや指示を受けずに、できる限り個人競技とするためのものである。

### 2.18.1 無線機

無線による交信は安全確保とチームリーダーと選手との間での連絡のために許可される。競技フライト中に競技に有利な情報やパイロットのコーチのために用いてはならない。許可される無線の周波数はローカル・レギュレーションで指定する。



## 2.19 休息日

競技委員長は競技最終日を除き競技連続 4 日の後、1 日または半日の休息日を設定することができる。休息日の決定方針については競技 1 本目までに発表する。

## 2.20 ラウンドの開始

オーガナイザーは選手権開催公認申請受理日に CIVL と同意した下記方式のいずれかを使って競技を開始できる。ローカル・レギュレーションにどの方式で開始するかを明記する。

### 2.20.1 ランチ・インターバル

パイロットは、条件に応じてファイナル・アプローチからランディングにかけて選手同士が十分なセパレーションが得られるように一定の間隔を置いてテイクオフする。推奨されるパイロット間のランチ・インターバルは 1.5 分とし、ランチ・マーシャルにより調整される。パイロットは 90 秒を選択することができる。

### 2.20.2 スタートリスト/飛行順序

選手は割り振られた順序で離陸。各国チームの選手は参加申込書に記載された順に 1、2、3 と番号が振り当てられる。チームの順番は競技開始時にくじ引きで決める。チームのフライト順番に従ってフライト順番と選手番号がきめられ、各チームから 1 番の選手が最初にテイクオフし 2 番の選手達、3 番の選手達と続く。

#### 2.20.2.1 最大限フライトする

競技委員長は競技日に出来るだけ多くフライトするように心がけなければならない、そのラウンドをその日のうちに終了することが出来ないとしても新たなラウンドを開始することが出来る。

#### 2.20.2.2 最終ラウンド

競技委員長が最終ラウンド（第 1 2 ラウンドあるいは競技委員長が予め最終ラウンドであると宣言していた場合はそれ以前のラウンド）を発表したときは、それまでの逆順でテイクオフしなければならない。ローカル・レギュレーションにテイクオフ順序の決め方について明記する。

### 2.20.3 新しいスタート・システムの提案

オーガナイザーによる新しいスタート・システムの提案。申請しようとする大会と同規模の全国大会を少なくとも 1 回実施して成功している場合、オーガナイザーはそのスタート・システムを申請時に提案することができる。オーガナイザーは申請受理前に詳細を提出する。

## 2.21 ラウンドの飛行

パイロットはブリーフィングで示されたフライトコースに従って飛び、進入を不必要に遅らせてはならない。しかし、ターゲットを狙えるだけ十分な高度をとってランディング・エリアに近づけなくならないように注意しながら選手同士は、良好なセパレーションを維持する必要がある（2.21.3 項参照）。

### 2.21.1 テイクオフのやり直し

テイクオフのやり直しまたはテイクオフ直後の安全上の問題でテイクオフ場あるいはターゲットから離れたところにランディングする結果になったパイロットは、そのラウンドでリ・ランチすることができる。

#### 2.21.1.1 テイクオフ困難

競技進行可能限界内の風と気象条件であっても、ランチ・マーシャル(Launch Marshal)または競技委

員長により安全にテイクオフできそうにないと判断されたパイロットは、短時間待たされたり競技への参加を取りやめさせられたりすることがある。

#### 2.21.2 テイクオフ

選手はランチ・マーシャルまたは競技委員長からの事前の許可がない限り参加選手番号に基づいて公表された順番にフライトしなければならない。そのような許可は、例えばリフライトするパイロットが前のラウンドを終わらせようとするようなときに与えられる。ランチ・マーシャルは、現地の状況やそれぞれの翼の性能によって暫定的にテイクオフ順序を調整することができる。

ランチ・マーシャルに前に出るように言われても順番通りにテイクオフする準備ができていないとき、または許可なしにテイクオフしたときは、そのラウンドのフライト点数に代えて最大点の罰則を科せられる。

#### 2.21.3 パイロット・セパレーション(高度差)

フライト中のパイロットは、ターゲットへの安全で障害のないランディングを確保するため他のパイロットと高度差を維持しなければならない。ターゲット上の低高度 (AGL) での追い越しは禁止とし最大点の罰則の対象となる。これは危険な飛行行為とみなされる。(第 2.16.1 項)。

#### 2.21.4 ターゲット接近禁止の合図

安全上ターゲットから離れるよう空中のパイロットに正式に知らせる場合はランディング測定場所の1名または複数の者が赤い信号旗をはっきりと振ることによってその合図とする。

#### 2.21.5 ファイナル・アプローチの定義

イベント・ジャッジは、選手がターゲットに向かって旋回し、進入する姿勢を明らかにして大きく方向転換する必要がないと思われた時点でファイナル・アプローチを開始したと判断する。選手がそれ以降更に操作を行ったとしてもその判断は変わらない。

#### 2.21.6 リ・ランチ

選手は採点数に署名する前にターゲットのイベント・ジャッジに申し入れることによって、問題となったフライトの後にリ・ランチすることを要望することができる。選手は他の人 (チーフ・ジャッジとイベント・ジャッジを除く) と話す前にレコーダーにリ・ランチの登録をしなければならない。イベント・ジャッジはジャッジング・チームと相談し (チーフ・ジャッジがそうすることを決定した場合は) ビデオを検証するためにリ・ランチに対する回答を最大15分間遅らせることができる。リ・ランチが認められた時点で問題のフライトの点数は取り消される。リ・ランチが許可された場合はそのラウンドの最後か、競技委員長の裁量によりそのラウンドの途中または次のラウンドにリ・ランチを行う。リ・ランチが認められずパイロットが採点に署名しない場合はコンプレイント (不服申立て) と判断され、その時間を記録しパイロットに通達される。

リ・ランチは下記の理由の場合にのみ認められる。

##### 2.21.6.1 風速

選手がランディング・ポイントに接地する前30秒間に風速が規定の速度を超えた場合、選手は自動的にリ・ランチ権が与えられる。選手は得点を受け入れるかリ・ランチするかを選ぶことができる。どちらかの決定は直ちに行わなければならない。

##### 2.21.6.2 ターゲットの識別不能

選手がファイナル・アプローチ中にターゲットが見えずターゲットにランディングしようとしなかった場合。選手はランディングするときに障害物を指摘 (指し示すか叫ぶ) することができる。

#### 2.21.6.3 ジャッジ間の不同意

ジャッジ達が何らかの理由で正確な点数に合意できない場合。

#### 2.21.6.4 安全上の理由

空中にいる他の選手を避けて安全なフライトをするため飛行プランを変更し、ターゲットにランディングしなかった場合。

#### 2.21.6.5 邪魔

外部からの重大な邪魔が入り選手のターゲット・アプローチに明らかな悪影響を与えた場合。

#### 2.21.6.6 ジャッジの裁量

技術的な問題または異常な事態に基づいてジャッジが判断した場合。不十分な飛行前点検の結果ではない装備の不良（コントロールラインの損傷またはフライト中に発生した大きなタックなど）、または急激な沈下によりターゲットに届かないまたは適切なファイナル・アプローチに不十分な高度で届いた場合が含まれる。リ・ランチはパイロットがターゲットに向かってフライトしようとしなかったときに許可される。

#### 2.21.7 制限風速

ターゲット地点で、着陸前 30 秒間計測したときの最大許容風速をターゲットごとにローカル・レギュレーションに規定する。通常、最大許容風速は 7.0m/s である。もしこの限界値を超えたときは、リ・ランチが自動的に許される。ターゲット上の風速限界超過が連続して数フライト続いたとき競技委員長は、風速が十分に収まるまで競技を中断することを検討しなければならない。測定不可能な上層域の風は安全上問題がある場合を除き考慮に入れない。

#### 2.21.8 ターゲットの障害物

選手はファイナル・アプローチの際にはターゲットの完全な視界が約束される。

#### 2.22 アウトランディング

ターゲット・エリアから外れてランディングしたパイロットは速やかにジャッジング・チームに報告しなければならない。それをしないと、リ・フライトが認められない。

#### 2.23 フライト可能範囲

オーガナイザーはローカル・レギュレーションまたはブリーフィングで飛行が禁止または制限されている空域あるいは地域を明確にする。これらの地域は、公表した地図で正確に表示する。

#### 2.24 採点

総合成績は、ローカル・レギュレーションと共に第 5 章に規定された採点方式によって算出される。

#### 2.25 スポーツマンシップに反する行為

スポーツマンシップに反する行為は第 11 章「参加者の態度に関する指針」および総則第 5.2 項に従って扱われる。

### 3 カテゴリー 1 大会への参加

#### 3.1 一般

ローカル・レギュレーションには以下の項目が明記される：

- ・選手権に参加できる最大選手数
- ・一つのNACが参加させうる最大選手数
- ・(必要であれば) ひとつのNACが参加させうる、それぞれの性別の参加選手数
- ・ナショナル・チームを構成する選手数

## 3.2 国別参加

### 3.2.1 オーガナイザー

オーガナイザーは各国のNACが参加させることのできる選手の人数、男女別およびナショナル・チームを構成するパイロットの最大人数枠をローカル・レギュレーションに明記する。最初のラウンドが始まってからは参加選手の変更はできない。

### 3.2.2 NACによる確証

それぞれのNACの責任ある者がオーガナイザーに対し書面で、選考したナショナル・チームメンバーおよびチームリーダーのリストを提出する(手紙、FAX、電子メールでも可)。

### 3.2.3 女性選手

女性だけの競技が別に設定されていない場合、チームの男女編成数はXプラス2である。

### 3.2.4 主催国のチーム

いくつかのナショナル・チームサイズを増やす様な再配分システムが導入される場合には、主催国は、国別ランキング1位の国と同数の選手を参加させることが出来る。これら追加される選手はこのルール(S7D)およびローカル・レギュレーションに明記される参加資格条件を満たさなければならない。

### 3.2.5 チームリーダー

チームリーダーは選手またはスタッフでもよいができれば外の者とする。ナショナル・チームのパイロットが2か所以上のサイトでフライトするときは、チームリーダーが補助者をそのサイトに指名することができる。

## 3.3 参加資格

### 3.3.1 資格

カテゴリー1の競技に参加しようとするパイロットに要求される基準

- ・選手の国がパラグライディングのパイロット証を発行している場合は、そのパイロット証を取得していなければならない。それはIPPI4の基準に相当するものに限る。
- ・選手国のNACが発行する有効なFAI スポーティング・ライセンスを所持していること。FAIに入会する予定の国の選手はFAI 事務局長発行のライセンスを使うことができる。

### 3.3.2 大会役員

カテゴリー1 イベントにおける大会役員は、そのイベントに選手として参加することはできない。

## 4 CIVL 公認カテゴリー2 大会

### 4.1 一般規則

#### 4.1.1 整合性

カテゴリー2 大会のルールは、できる限りカテゴリー1 大会のルールに基づいて制定し、基本方針においてそれらと矛盾してはならない。カテゴリー2大会がカテゴリー1大会のプレ大会でもあるときは、第9章のサンプル・ローカルレギュレーションを使い、参加資格およびFAI 役員の数に関する事項以

外は Section7C のカテゴリー 1 の要件に従って運営する。

#### 4.1.2 用語

諸国の NAC や選手に送られる情報または大会中に発行される資料は英語および、オーガナイザーの裁量によってフランス語や開催国の言語とする。すべての説明は英語が優先する。

#### 4.1.3 FAI の権限

ルール、レギュレーション、プログラムその他の公式文書には FAI の権限を明記し、FAI のロゴを表示する。

#### 4.1.4 大会の型式(Type)

FAI 総則第 3.1.3 及び 4 項に定義された国際競技会(International Sporting Events)または公開国内選手権(Open National Championships)で以下の要件に従った競技会のみが CIVL の認めるカテゴリー 2 大会として公認される。外国の選手が開催国の選手に比較して不利とならないように、計画されたフライング・デーの中で休息日が 1 日を超えるようなシリーズ形式でカテゴリー 2 大会を開催してはならない。

#### 4.1.5 スポーティング・ライセンス

カテゴリー 2 の大会に参加する選手は、有効な FAI スポーティング・ライセンスを持っていないといけない。

### 4.2 要件

#### 4.2.1 NAC の権限

オーガナイザーの国の NAC が承認した大会のみがカテゴリー 2 として公認される。もし大会が他の NAC の管轄地域で開催される場合は、オーガナイザーはその NAC の承認を得なければならない。この承認を証明するものを大会申請書と共に FAI/CIVL に提出する。

#### 4.2.2 大会の通知

オーガナイザーは、大会の少なくとも 1 ヶ月前に CIVL の大会コーディネーターに通知をしなければならない。

#### 4.2.3 公認申請

オーガナイザーは、大会を登録する少なくとも 30 日前に以下の準備をしなければならない。

- CIVL の大会コーディネーターに提出する記入済みの申請書(CIVL のウェブサイトから入手可能)
- FAI のへの公認費(Sanction fee)。申請書のコピーを添える。
- 外国選手のためのホームページあるいはメール・アドレスと参加費支払方法の詳細。

以上により、その大会が FAI カレンダーに記載され、カテゴリー 2 の大会として公表される。

#### 4.2.4 大会の延期

もし大会がキャンセルとなり参加選手全員にエントリー費が戻される機会が与えられる場合には、最低でも 30 日の猶予を持って大会を延期することが出来る。猶予の日数は大会開始日から起算する。

#### 4.2.5 外国選手の枠

カテゴリー 2 大会として公認されるためには、選手総数の少なくとも 25%(少なくとも 20 名)の枠を外国選手のためにとっておかななければならない。オーガナイザーは、外国選手の参加を促し、少なくとも 2 か国の参加を目標とする。

#### 4.2.6 ローカル・レギュレーション

カテゴリー 2 大会のローカル・レギュレーションは、少なくとも大会開催の 1 か月前に入手できるこ

とが推奨される。ローカル・レギュレーションには、第 4.1.1 項に従いながらも、カテゴリー1 と違う部分を明記する。

#### 4.2.7 サイトの要件

ヒル・ランチの大会では、離陸地と着陸地の最小高度差は(第 5.3.1 項に規定されているものから)150 mに減らすことができる。トウイングの場合も、150m 以下ではない。

### 4.3 公認の認定要件(Validation)

#### 4.3.1 最小参加選手数

カテゴリー2 の認定に必要な最小参加選手の数レギュレーションに明記する。それは 8 名より少なくしてはならない。

#### 4.3.2 最大参加選手数

最大参加選手数は、カテゴリー1 で許される数、すなわち 150 名を超えてはならない。

#### 4.3.3 最小ラウンド数

カテゴリー2 大会として承認に必要な最小ラウンド数をローカル・レギュレーションに明記する。それは 2 ラウンドより少なくしてはならない。

#### 4.3.4 最大ラウンド数

最大ラウンド数はカテゴリー1 で許される数、すなわち 12 ラウンドを超えてはならない。

### 4.4 大会結果

#### 4.4.1 提出期限

カテゴリー2 大会のオーガナイザーは、大会終了後 7 日以内に公式大会結果を CIVL 大会コーディネーターに送らなければならない。期限内に結果が提出されない場合、CIVL は 7 日目に大会オーガナイザーおよび関係する NAC に督促状を送る。14 日目までに公式結果が送られてこない場合には、更に督促状を送り入手可能な非公式結果（信頼できる情報源から得られる）を基に WPRS ポイントを計算する。公式結果が 30 日たっても送られてこない場合には、非公式結果が最終と見なされ公式となる。

#### 4.4.2 結果の書式

全ての結果には選手の CIVL ID 番号が記載されていなければならない。WPRS に計上されるための結果のフォーマットは以下の順序で必要事項を記載した MS エクセル (.xls あるいは.csv) とする。

選手氏名（名前、姓の順）

国籍（IOC 省略形）

総合（ポイント）

FAI ライセンス（番号）

CIVL 選手 ID 番号

#### 4.4.3 結果の確定

CIVL のホームページに掲載された全ての結果およびランキングは、大会最終日から 3 カ月が経過すると最終として確定する。

### 4.5 ワールド・パイロット・ランキング・スキーム(WPRS)

カテゴリー2 大会の内容は、現在公表されている方法により WPRS のランキングに反映される。

#### 4.6 不服申立て (Complaint)、抗議(Protest)、控訴(Appeal)

コンプレイントとプロテストの方法と制限時間はローカル・レギュレーションに明記する。それらはFAI 総則に従っていなければならない。オーガナイザーは最初のパイロット・ブリーフィングに於いて抗議が提出された際に陪審を任命するか、またどのように選出するかを明確にしなければならない。FAI に対するアピール権については総則の第9章に規定されており、そのようなアピールは、総則に特記された事項を除き、選手出身国のNACを通じて提出する。

#### 4.7 安全

カテゴリ2の大会は、カテゴリ1の安全要件に従うことが推奨されている。ローカルの条件により必要なことを追加する。特に安全委員長(Safety Director)を任命しないときは、競技委員長が飛行開始前に全パイロットに安全ブリーフィングを行う。

### 5 採点方法およびターゲットの装備

#### 5.1 採点

競技の採点には CIVL で承認された方式を用いる。

カテゴリ1の競技を初めて行うときは、事前に大きな大会で試験的に使ってみる。

その採点方式はローカル・レギュレーションと一致していなければならない、個人用とチーム用の両方について詳しく規定する。

選手の採点は、センチ単位とし、小数点以下を四捨五入し整数で表示する。

##### 5.1.1 採点の記録

フライトしなかったパイロットは DNF と採点表に記載され最大点数が与えられる。あるラウンドで失格となったパイロットは DSQ と表記され最大点数が与えられる。病気または事故により辞退したパイロットはその後のラウンドの得点が全て最大点となる。失格したパイロットは、採点対象として扱われない。リ・ランチを要求し認められた選手は採点表に、認められた理由(第2.21.6項に記載されている)およびリ・ランチで得た採点を記載する。

##### 5.1.2 負傷パイロットの援助

負傷したパイロットを助ける目的でランディングしたパイロットはそれによって不利な扱いを受けない。リ・ランチを決めるのは競技委員長の裁量によるが、このときあらゆる状況を考慮しなければならない。危険な状態にあるパイロットに関する手順の指針は第10章「危険状態のパイロット援助の指針」を参照。

##### 5.1.3 採点表 (Score sheets)

採点表はその内容に応じて PROVISIONAL(暫定)および OFFICIAL(公式)と表記し発行日と時間を記載する。

#### 5.2 採点方法

##### 5.2.1 各パイロットの得点

ランディング地点(すなわち最初の接地点)とデッドセンター・ディスクの縁との距離をセンチメートルで採点する。デッドセンター・ディスクに着地すれば0cmとなる。

- 測定フィールド外にランディングした場合の得点は最大点となり、それは測定フィールドの半径の寸法となる。

- ・ ランディングは足で行うこと。フォール(着)した場合、得点は最大点となる。フォールとは翼が地面に付くかあるいは選手が測定フィールド外に出る前に選手の体の一部あるいは装備品(アクセル、フットバー、トウヨークを除く)が接地した場合をいう。
- ・ 両足同時接地の場合または左右どちらが最初に接地したのか判定できない場合(かかと、つま先、)足跡の最も遠くを測定する。

### 5.2.2 自動計測装置(Automatic measuring device)

最短 15 cm までの点数が自動計測装置で測定される。選手は計測装置に記録されるようにある程度の圧力をかける必要がある。計測装置が作動しなかったりリセットされてなかったのに最初の接地点がその上であったときは、審判が公平に正確に測定できるという条件のもと、手で測定して採点を行ってもよい。

### 5.2.3 個人得点

選手の個人得点は得点した点数すべての合計数とする。5 回以上のラウンドが成功した場合、最悪の得点 (1 個) を除く。公式に登録した選手はすべて、有効で採点される選手であり続けるためにはその大会で 1 回は飛ばなければならない。

### 5.2.4 チーム得点

国別チームの各ラウンドの得点は各チームのベスト Y 人の得点合計とする (Y はローカル・レギュレーションで明記する)。Y は通例  $(X + 2) / 2$  で切り上げて整数とする。最大のチーム人数はローカル・レギュレーション記載される  $X + 2$  である。

#### 5.2.4.1 小規模チーム

もしローカル・レギュレーションに記載されたチーム・サイズに満たない選手しか参加していない国の場合、ラウンドごとに足りない選手に対し最大得点を与える (チーム・サイズが 5 名であった場合に、3 選手しかいないチームは、その 3 選手の実際の合計点に 2 つの最大得点を加算したものになる)。

### 5.2.5 同得点

#### 5.2.5.1 チーム

競技終了時に上位 3 チームに同得点があった場合、同得点のチームのすべてのメンバーは条件が許す限り追加のフライトを行い国別チームの得点を合計する (第 5.2.4 項)。それでも同得点チームが生じたときは順位が決まるまで追加フライトを行う。時間がないときはチーフ・ジャッジの裁決によって各チームから 1 名の代表選手の間でフライオフを行う。

#### 5.2.5.2 個人

上位 3 名の中に同点の選手がいた場合は、それらの選手間で、タイブレイクのフライトを行う。

### 5.2.6 点数の確定

ラウンド終了ごとにレコーダーは速やかに成績表 (掲示日と時間を明記) を PROVISIONAL (暫定) と題して本部掲示板に掲示する。得点に関する抗議は成績表掲示後ローカル・レギュレーションに明記された時間内に行わなければならない。その時間が経過するとそのラウンドの得点は OFFICIAL (公式) と宣言される。もし暫定成績が日没後 2 時間以上の後、かつ翌日の午前 6 : 00 までに掲載された場合は、不服申し立ての期限は午前 8 : 00 となる。

## 5.3 ペナルティ・リスト

### 5.3.1 科せられるペナルティ

競技委員長は、いかなるルールあるいはローカル・レギュレーションに対する違反あるいは不順守に対



しペナルティを科すことが出来る。ペナルティの厳しさは、違反行為の程度に従って最も軽い警告から失格までにわたる。この規則（S7C）あるいはその大会のローカル・レギュレーションに異なる記述がある場合を除いて、競技委員長により科せられるペナルティは彼の判断により、以下のいずれかとなる：

- ・警告
- ・運用上の不利益
- ・そのラウンドに対し最大得点を与える
- ・失格

### 5.3.2 ペナルティの適用

競技委員長はペナルティの適用にあたっては首尾一貫していなければならないが同じ違反行為が一人あるいは複数の選手により繰り返し行われる場合には、ペナルティを厳しくすることも可能である。

## 5.4 ワールド・パイロット・ランキング・システム (WPRS)

WPRS は世界中で開催される FAI 公認大会に参加する全ての選手のランキングを付けるようにデザインされたシステムである。ハンググライディングおよびパラグライディングのそれぞれの種目に対し個別のランキングが付けられている。それぞれのランキングは FAI 公認大会の結果から現在の WPRS 計算式を使ってそれぞれの選手にポイントを与えて決定される。国別ランキングは各国の予め決められた人数の選手の WPRS ポイントを合計して決定する。

## 5.5 ターゲット

### 5.5.1 位置—ヒル・ランチでのガイドライン

ターゲットの位置は、全方向からの着陸が可能でなければならない。位置の決定は競技委員長の裁量による（スチュワードのアドバイスを受けることができる）。その位置の変更は、ラウンドの途中ではなく終ってからとする。

（ターゲット・セッティングのガイドライン：ヒル・ランチの場合、離陸地点と着陸地点との投影された距離と高度差の比は 5:1 の最大滑空比とし、最小高度差は 200m とする）

### 5.5.2 位置—トウ/ウインチ・ランチでのガイドライン

推奨される最小高度（150m）で切り離した場合に、その大会で決められている最大風速までのあらゆる風速で選手が容易に到達できる位置にターゲットを設置する。風速あるいは風向が変わった場合は、競技委員長の裁量でいつでもスタート位置を対応する場所に変更することが出来る。

### 5.5.3 計測装置

ターゲットの中心は自動計測装置となっていて、中心は直径 3cm、色彩コントラストのはっきりした、できれば黒地に黄色のデッドセンター・ディスクとする。自動計測装置は 1cm 以下の目盛で最小距離 15cm まで測れるものでなければならない。装置は固いベースプレートに計測フィールドの高さに固定し、できる限りフラットに維持する。大会期間中は同じ直径のデッドセンターを使用しなければならない。

## 5.6 測定フィールド(Measuring field)

測定フィールドとは、選手のスコアを計測する平らな場所である。中央に自動計測装置をセットし、明確な円周をマークする。その半径はデッド・センターを中心にして半径 0.5m、2.5m、5m、10m で

ある。

### 5.6.1 広さ

測定フィールドの最小半径は5mとする。

### 5.6.2 構造

測定フィールドの構造は草地、砂地、カーペットなどで、選手の最初の接地点（総則 A12.5 項、着陸点）が正確に判断できるものとする。測定フィールドは、それが設けられているランディング・フィールドと同一レベルでなければならない（つまり浮かび上がったり沈みこんだりしてはならない）。

### 5.6.3 立入制限

チーフ・ジャッジまたはイベント・ジャッジは、測定フィールドの周囲、ターゲットから少なくとも半径10mの範囲を「大会役員以外の立入禁止」地域に指定する。境界にはマークをする。

## 5.7 風向表示

ターゲット・エリアの周辺に、5m以上の高さで見えやすい吹き流しか風向指示器を設置する。吹き流しの長さは2.5m以上で、7m/sの風で水平になびくように設計されているものとする。自由に風になびき、支え線で邪魔されないこと。色はシグナルオレンジ、ルミナスオレンジ、ピンクまたはグリーンのようなランディング・エリアに対しコントラストがあるもので、テーパーのかかった先端は暗い色、ポールに近い付根は明るい色とする。

さらにターゲット・エリアには、1m/s以下の風の風向を示す軽い風向計を配置する。色は吹き流しと似たものとする。

## 5.8 風速レコーダー

ターゲットから50m以内で、地上5~7mの高さに設置したセンサーで計った風速を記録する。自動計測装置が故障したときは、ジャッジは地上2m以上に設置した機械式計器を用いてその競技を終らせる。

## 6 選手権オーガナイザーのためのチェックリスト

CIVL は、[http://www.fai.org/hang\\_gliding/documents/](http://www.fai.org/hang_gliding/documents/) のウェブサイトからダウンロードできる”Guidebook for Competition Organizers”を作成している。これと FAI 事務局からカテゴリー1大会を開催するオーガナイザーに提供される”Guidelines in the Event of a Casualty or Serious Accident at FAI Air Sport Events”を準備活動の参考とする。

### 6.1 準備

公認申請の準備

- ・ 予算とスポンサー。大会運営に十分な予算はあるか？
- ・ 時間(Timescale)。大会を適切に組織するための十分な時間はあるか？
- ・ CIVL への公認申請。日程、詳細な資料のパッケージ、ローカル・レギュレーション作成上の問題点または質問事項、カテゴリー1大会の公認費、発注したメダル数のチェック、証明書の文書作成。
- ・ FAI の参加規則。入国が拒否される FAI 会員はいないか？
- ・ 税関。主要な入国地点の税関に選手権と選手の持ち込む機材について通知する。チームリーダーには、通知済み税関を知らせる。
- ・ ビザ/予防注射、必要事項。

- ・ チームとパイロットの登録／参加申込書。
- ・ 予備申込(provisional entries)の発送日、公式参加申込書の印刷、申込書の返送期日、参加費振り込みのスケジュール。
- ・ 参加申込書の作成。第9章参照。
- ・ サイト。適合性、交通、使用可能性、使用許可。
- ・ 空域。離・着陸地点上空が自由であるかあるいは使用可能であるか。禁止空域。
- ・ 無線機、使用許可と周波数（エアバンドか2m）、必要なライセンス。
- ・ 携帯電話のカバー範囲。
- ・ 気象。天候の良い時期（気温）、大会中の気象予報、衛星気象画像。
- ・ 飛行地域の地図。離陸・ターゲット地域、およびアクセス、補助着陸場、駐車場等。
- ・ 救難／医療サービス。医師（語学能力）、救急器材、救急車またはヘリコプターの対応時間と待機状態。
- ・ 大会本部。適合性、位置、通信器材。
- ・ 競技委員長と主要な役員。資格、言語、勤務計画。
- ・ 現地施設。ホテル、キャンピング・サイト、レンタカー、ショップ、修理施設。
- ・ 保険。オーガナイザーおよび選手の保険。第三者賠償を含む。
- ・ 参加費。金額、含まれる内容、為替レート。
- ・ 開始前到着。練習日。
- ・ ゲスト・パイロット（大陸選手権）。資格、招待方法。
- ・ 選手権情報。選手権の情報を主としてウェブサイトで伝える場合は、参加申込締切日の少なくとも60日前までにすべての関連情報を掲載する。
- ・ 環境保護に関するFAIの規定を遵守（FAIウェブサイト参照）。
- ・

## 6.2 フライイング・サイト

**ヒル・サイト。**位置、風向、谷上／ターゲット上の高度、地形、地表、テイクオフ場の広さ、送電線その他の危険物、ヘリコプターの着陸スペース、駐車場、避難施設、飲料水、トイレ。

- ・ サイトまでの距離。自家用車が登れるか、四輪駆動車あるいはオーガナイザーのトラックのみが登れる道路か、テイクオフ地点までのケーブルカー、登山電車か、途中の駐車可能地。オーガナイザーの輸送手配。
- ・ 駐車場およびテイクオフまでのパイロットの輸送。

**トウ・サイト。**全方向の風に対応可能な十分な広さの場所、アクセス、危険区域、通行止め、駐車場、避難施設、飲料水、トイレ、騒音、観衆のための場所、離・着陸地点を結ぶ交通、通信。

**ターゲット・エリア。**地形の平坦さ、アプローチ時の危険。ジャッジング・チーム、パイロット、役員用の施設、本部への近接性、観衆用の場所。

- ・ ジャッジング・チーム用器材：吹き流し、風速記録装置、エレクトロニック・パッド、フィシェ、計測テープ、マット、信号装置、採点用具など。
- ・ ターゲット／ランチ間の交信。2か所以上からランチするときは、各ランチ・マーシャルが無線機を持つ。

**フライイング・エリア。**地形のタイプと適合性。着陸不可能および回避困難な密集地域、適切な代替／緊急着陸場、交通上の問題、着陸禁止エリア、自然保護地域あるいは自然が問題となっている地域が近

くにあるか。

- ・ 気象、低い雲のかかりやすい場所、ウェーブかフェーンの可能性、サーマル活動の発生時刻。
- ・ 午後になってからのサーマル発生の可能性、分かっている乱気流エリア、気象条件。
- ・ スタート・マーシャル。離陸担当者名、助手の数、テイクオフ・エリアの諸器材（吹き流し、救急用品等）。ウインチ・チームの場合は信号用具、ウィーク・リング、無線機等。
- ・ Section 7C の第 5 章も参照。
- ・

### 6.3 大会本部

- ・ 大勢の選手のためのレセプションやミーティングに適した建物、掲示板を含む。
- ・ 事務局員・役員用の部屋。
- ・ 競技委員長／採点計算室。コンピュータ・ルーム付。
- ・ 陪審または会議のための部屋
- ・ グライダー保管エリア
- ・ 販売所／プレス・ルーム
- ・ 交信手段：電話、ファックス、ワープロ、コピー機、オーガナイザーと選手がアクセスすることが出来るインターネット。
- ・ 効率良く仕事をするのに十分な机と椅子。
- ・ ブリーフィング、気象予報、成績、ローカル・レギュレーション、オーガナイザーの発表、新聞の切り抜き、一般（紛失、拾得など）のための掲示板、緊急通告のための大きめの黒板／チョークボード
- ・ 事務用品。十分な用紙、ペン、固形のり、修正液、メモ帳、クズかご等、定規および日常事務用品
- ・ 管理者。本部要員氏名、助手の数
- ・ 専門スタッフ。成績集計コンピュータ係、プレス係員、広報・式典係、要すれば新聞編集係。警察、軍、役所、自治体または環境組織、VIP との連絡係
- ・ 近くに飲料水、レストラン、トイレ、ワイファイ・ネットワーク、公衆電話、郵便ポストがあることなど
- ・ 警察、軍、公共・救急サービスとの連絡

### 6.4 ローカル・レギュレーションと FAI への報告

ローカル・レギュレーションの作成と FAI への報告

- ・ ローカル・レギュレーション文書。第 9 章の様式を使用。追加または変更の申し出は CIVL に公認申請を提出する際に行う。
- ・ FAI への報告書。大会終了後 48 時間以内に FAI に送る。競技結果の詳細、抗議の数および発生した問題点を含める。広報用の写真を添えてもよい。写真は電子メールで開催期間中に FAI 事務局へ送ってもよい。コピーを CIVL 会長に送らなければならない。

### 6.5 用紙とブリーフィング・ノート

役員には、頑丈なクリップボード、ペンなどを配布し効率的に作業できるようにする。

必要とする用紙は、

- ・ パイロットの氏名、国籍、年齢、グライダーのタイプおよび選手番号を記載した参加選手の最終リスト
- ・ テイクオフ順序表

- ・ 必要と思われるパイロットのための現地言語による助けと電話のリクエスト
- ・ 日付とラウンド・ナンバーを記載した採点用紙
- ・ チーム採点用紙(score sheets)ーすべての用紙は日時と記入者の氏名を記入する欄があること
- ・ 参加者全員への名札(選手と役員)
- ・ 参加した選手とチームリーダーにメダルか記念品

## 7 公認料

オーガナイザーが FAI/CIVL の大会開催のために支払う公認料は下記の通り：

### 7.1 カテゴリー1大会

#### 7.1.1 公認料

カテゴリー1の大会はすべて大会開催中のフライト日の1日と選手1人当たり3.2ユーロとし、練習日、開会式および閉会式の日数は除く。但しこの方式で算出した金額は下記金額を超えないものとする。

世界選手権および WAG (訳者注：World Air Game) 各クラス：5,120 ユーロ

大陸選手権：3,200 ユーロ

#### 7.1.2 初めての大会

選手権を新しく開催することを奨励するため、各カテゴリー1の大会を初めて開催するオーガナイザーの公認料は50%に減額される。

#### 7.1.3 支払方法と支払時期

公認申請時(カテゴリー1大会のすべて)の預託金：640 ユーロ。申請が受理されなかったときは返金される。CIVL がローカル・レギュレーションを承認する時点で WPRS のトップ3の国は参加費をFAIに直接支払いそれが預託金として扱われる。大会が成立したときに公認料はこの中から支払われ残額はオーガナイザーに支払われる。

FAI に参加費を直接支払う国は CIVL が承認したローカル・レギュレーションにその旨記載される。支払われなかった公認料、FAI 役員の費用、罰金はこれらの参加費から充当される。

### 7.2 カテゴリー2大会

カテゴリー2の大会公認料は1名の参加費と同額で(パイロットの参加費で、宿泊代を除くフィルム代、リフト券などの基本的な必要経費を含む)最低20ユーロとする。カテゴリー2大会のオーガナイザーが参加選手のFAIライセンス確認を怠ったと判明したときは、それが初めての場合はCIVLからNACに警告文が送付され、それ以降も怠った時には金銭的罰則、その国からの次回の公認申請に対して申請料が2倍となる、が科せられる。

### 7.3 料金の支払い

すべての料金は大会開始前にFAI/CIVLに支払わなければならない。支払いの際には大会名称、競技クラスおよびオーガナイザー名を添付する。FAIの銀行のclearing code (SWIFT/BIC) およびIBAN Codeを必ず記入する。

FAI 振込先銀行：

Credit Suisse Private Banking

Rue du Lion d'Or 5-7

Case postale 2468

CH- 1002 Lausanne

Switzerland

Account name	Federation Aeronautique Internationale
Account Number	(Euro):0425-457968-32
	IBAN Code: CHF31 0483 5045 7968 3200 0
	0425-457968-32 (Euro)
SWIFT/BIC Code	CRES CHZZ 10A

## 8 プレ・フライヤー(Pre-flyer)

### 8.1 目的

プレ・フライヤーの目的は競技委員長のテイクオフ開始時の決定を助け、選手たちにエリアのフライト条件についての情報を知らせることである。

### 8.2 飛行のタイミング

毎競技日の開始前および長時間フライト中断があったときにダミーフライトを実施する。この判断基準となる時間に関してはローカル・レギュレーションで規定する。プレ・フライヤーは競技委員長が必要とする情報を得るため、委員長が望むタイミングと場所でフライトし、ターゲットを目標にしてランディングする。そのフライトが選手たちにとってその時の気象情報となるからである。

### 8.3 身分と技能

プレ・フライヤーは競技参加チームのメンバーであってはならない。プレ・フライヤーは大会運営組織に属し他のスタッフと同様の扱いを受ける。また飛行条件について判断することによりオーガナイザーとパイロットを助ける重要な役割を持つ。

プレ・フライヤーは選手と同等の技能を有し、選手と同様の地位にある。

### 8.4 他のフライヤー

フリーのフライヤーおよびチーム関係者は競技日に競技用テイクオフからフライトすることは許されない。特にターゲット・アプローチを行うことは厳禁である。

### 8.5 競技委員長および安全委員長

競技委員長あるいは安全委員長は競技中にフライトしてはならない。全選手が戻ってきた時点で競技が終了したと判断する。しかし、そのどちらかが捜索のためにヘリコプターあるいはそれに似た航空機でフライトすることを妨げるものではない。

## 9 ローカル・レギュレーション

### 9.1 目的

ローカル・レギュレーションは、すでに公刊されている FAI スポーツ規定の総則とこの Section (S7C) に追加してチームリーダーとパイロットに情報とルールを提供する。また Section 7C や総則の中で裁量や選択に任されている部分についても述べる。それらは、他の文書の中で公刊されている内容と重複し

てはならない。

## 9.2 ルールの優先順位(Hierarchy)

ローカル・レギュレーションは、FAI スポーツ規定の総則または Section7C で公刊されたルールと矛盾してはならない。ルールの優先段階は、ローカル・レギュレーションの上に Section7C があり、その上に総則がある。

## 9.3 フォーマット

カテゴリー 1 の大会のためのローカル・レギュレーションは、このサンプルに使われた順序とフォーマットで記述することにより、チームリーダーやパイロットが読みやすい一貫したレイアウトと内容の順序になる。このフォーマットはカテゴリー 1 選手権のプレ大会でも使用される。

## 9.4 サンプル

### ローカル・レギュレーション

(大陸例えばヨーロッパ、世界) パラグライダー・アキュラシー選手権



場所

---

日程

---

オーガナイザー

---

ON BEHALF OF THE FEDERATION AERONAUTIQUE INTERNATIONALE

文章および項目番号は公認申請時に CIVL と合意された場合を除き変更してはならない。申請時に開催予定オーガナイザーはローカル・レギュレーションの追加または変更を CIVL に申し出ることができる。

本文書の空欄および括弧の中の項目は CIVL との合意の後、開催予定オーガナイザーが記入する。右端欄に示された Section 7 の項目番号はチームリーダー、陪審等が参照するために記載されている。

ローカル・レギュレーションの表紙には下記を記載のこと。

LOCAL REGULATIONS FOR THE

-----  
CHAMPIONSHIP

このローカル・レギュレーションは、FAI スポーツ規定の総則および Section 7 と併用する。ここで  
の Section 7 の項目番号は Section 7 の最新版と照合すること。

開催選手権の正式名称

開催場所および国名

日程、練習日、選手登録日、開会式を含む

FAI のロゴおよび大会のロゴ

オーガナイザー\_\_\_\_\_ナショナル・エアロクラブが FAI の名のもとに開催する。

大会開催前の交信用の宛先および開催国 NAC の住所

大会のウェブサイト

1. 目的

この選手権の目的は各クラスのチャンピオンを決定するために、良くかつ満足できる競技フライトを  
提供しパイロットおよび各国間の親善を図ることである。(Section7C; 第 2.2 項)

2. プログラム

練習、グライダーと器材の点検、登録\_\_\_\_\_から\_\_\_\_\_

開会式 \_\_\_\_\_

初回ブリーフィング \_\_\_\_\_

競技フライト日 \_\_\_\_\_

閉会式、表彰式（予備日の有る無し） \_\_\_\_\_

3. 役員

大会委員長\_\_\_\_\_

競技委員長\_\_\_\_\_

主たる役員\_\_\_\_\_

チーフ・ジャッジ\_\_\_\_\_

イベント・ジャッジ\_\_\_\_\_

ランチ・マーシャル\_\_\_\_\_

気象担当\_\_\_\_\_

国際陪審 委員長\_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

スチュワード\_\_\_\_\_

(陪審およびスチュワードは国籍を表記)



## ローカル・レギュレーション

1.	参加申込	S7C 参照項目
1.1.	この選手権には FAI の会員および賛助会員であるすべての国から男性__名、女性__名を超えない数のパイロットを参加させることができる。(申込は公式の申込書に記入して行い、NAC 代表のサインを受ける)	3.2
1.2	締切日を過ぎてからの申込および支払いは受理されない。	
1.3	以下の NAC は参加費を直接 CIVL/FAI 口座に支払う。(CIVL 総会あるいは理事会により本書承認時に於ける WPRS の上位 3 カ国)	7.1.3
2.	競技一般規定	
2.1	選手登録事務所は(_____)で、登録受付時間は____日の____時から____時までとする。会場到着後チームリーダーおよび選手は登録窓口へ必要書類を提出し点検を受け、追加された規則や情報を受け取る。登録受付が終了した時点が選手権の正式スタートとなる。	2.11.2
2.2	パイロットが用意する書類 パイロット登録書(Registration Form) 国籍を証明する資料 有効な FAI スポーティング・ライセンス 技能証(NAC のライセンスまたは IPPI カード) 該当するときはトウイングの経験を証明する資料 NAC のサインを受けた参加申込書 締切日までに支払われた参加費の領収書 グライダーの耐空証明書(Section7C に準拠する) 参加申込書に指定された保険証明証 サインされた免責証明書(開催国で有効なとき)	3.3.1
2.3	ラウンド数 大会期間中のラウンド数は最大____ラウンドとする(max12)。大会が成立するには、少なくとも 3 ラウンドが成立しなければならない。	2.4.7
2.4	ランチオーダー チームのランチオーダーはくじ引きで決める。チームの中の各パイロットにはそれにより飛行順序が決定される 1 番から最終番までの番号が振られ、くじ引きで決まったチーム順で各 1 番が、次いで各 2 番という具合に飛行する。最終ラウンドはその時点での成績の逆順にフライトする。	2.20.2 2.20.2.2
2.5	オーガナイザーは、各パイロットとグライダーに番号を与える。それは登録時に指示された(またはここに明記した)方法で明確に表示されなければならない。	2.11
3	休息日 休息日の取り方に付いては、本書で特記されない限り競技開始前に発表する。	2.19

## FAI スポーティングコード-S7C 2012年5月1日

4	<p>パイロット・ブリーフィング</p> <p>事前の発表と掲示がない限り、毎朝____時にパイロットとチームリーダーに対しブリーフィングが行われる。このブリーフィングには、チーフ・ジャッジおよび/あるいはイベント・ジャッジ、安全委員長、陪審代表およびスチュワードも参加する。気象が悪化したときはブリーフィングを延期もしくは再開することができ、時間が公表され掲示される。すべてのパイロット、チームリーダー、その他の人々はただちに参集しなければならない。</p> <p>チームリーダー・ブリーフィングは毎日のブリーフィングで公表され掲示される。</p>	2.13         2.14
5	サイト	
5.1	<p>ヒル・ランチ：以下のリストを作る：</p> <p>サイト名、位置、高度、ランチ／準備場所の広さ、ランディング・フィールドまでの距離／高度差、任意／緊急着陸場、風向等。予備サイト。</p> <p>ウインチ・ランチ：以下のリストを作る：</p> <p>サイト／飛行場名、位置、広さ、レイアウト、トウまたはウインチの数／タイプおよび関連機材(クイック・リリース、テンショメーター、ウィークリングなど)。最低／標準的曳航高度、ターゲットの予定位置、風向。</p> <p>該当するときは地図の参考ウェブサイト。</p>	
5.2	風速計および風速記録のための特殊な器材またはセットアップを具体的に記述。	5.5.および 5.6
6	<p>離陸方法</p> <p>ウインチ・トウイング：</p> <p>パイロットは、下記いずれかのパラグライダーのトウランチ経験を証明する文書を持っていないなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1) トウレーティングかトウの資格を明記した NAC のライセンス、または</li><li>2) 過去 3 年間のトウランチ競技における安全委員長またはランチ・マーシャルによりサインされたフライト・ログブックか証明書</li><li>3) トウイング練習過程終了時に受けとった主任インストラクターのサイン入り証明書</li></ul> <p>パイロットはトウリリースを持参するかオーガナイザーから借りなければならない。パイロットのトウリリース装置は検査のときにチェックされる。パイロットは、トウランチの十分な経験と技術を持っていることを実証する準備ができなければならない。</p> <p>ヒル・ランチ：</p> <p>選手は強風でも無風でも離陸できなければならない。</p>	
7	離陸と着陸	

FAI スポーティングコード-S7C 2012年5月1日

7.1	<p>ランチ・マーシャルか競技委員長により風や気象条件が安全限界内にあっても安全に離陸することはできないと判断されたパイロットは、一時待機させられるか競技への参加を断られる。</p> <p>離陸への試みが失敗したり、離陸直後に安全上の問題が発生（パイロット自身による飛行前点検の怠りに起因しない）したりして、離陸場またはターゲットから離れて着陸したパイロットには、そのラウンドでリ・ランチが認められる。</p>	2.21.1.1  2.21.1.
7.2	<p>選手は、ランチ・マーシャルから事前に許可されない限り、発表された順序で飛行しなければならない。</p> <p>ランチ・マーシャルから離陸のため前へ進むようコールされても、決められた順序通りに飛ぶための準備ができていなかったり、許可なしに飛行した選手には最大点が科せられる。</p> <p>離陸時にその場にいなかったパイロットは、そのラウンドの結果は ABS とされ、最大点が記録される。</p> <p>飛行しなかったパイロットは結果の中で DNF と記入され、最大点が記録される。</p>	2.21.2     5.1.1
7.3	<p>推奨される離陸のインターバルは少なくとも 1.5 分とし、ランチ・マーシャルが加減してもよい。パイロットは 90 秒を選択することが出来る。</p>	2.20.1
7.4	<p>ファイナル・アプローチ</p> <p>トウ・ランチ：選手にはフェアなターゲット・ランディングができるだけの余裕が与えられなければならない。しかし、パイロットはファイナル・アプローチも考慮に入れて確実にターゲットへ行ける十分な機会がある地点でリリースしなければならない。</p> <p>ヒル・ランチ：選手には、フェアなターゲット・ランディングができるだけの余裕が与えられなければならない。しかし、選手はファイナル・アプローチも考慮に入れて、離陸地点から直接着陸地点へ飛行する十分な時間を持たなければならない。</p>	2.21.5
7.5	<p>着陸</p> <p>選手の得点は、最初の接地点からデッドセンター・ディスクの縁まで何 cm あったかによって与えられる。最大点は測定フィールドの半径により決まる。</p> <p>測定フィールドには、0.5m、2.5m、5m および 10m の円を明確に表示する。</p> <p>ランディング・エリアの材料は、滑りにくいものとする。</p> <p>着地は足で行わなければならない。フォールは最大点となる。フォールの定義は、競技時に有効な Section7C のルールに述べられている。</p> <p>両足で着地し、どちらが先か判定できないときは足跡の最も遠い点を計測する。</p>	5.2.1     5.6  5.2.1
7.6	<p>得点を計算する競技における最大許容風速は _____ (デフォルトでは</p>	2.21.7

	7.0m/s)	
7.7	安全上の理由からターゲットから離れるように飛行中のパイロットに伝える公式の合図は、計測フィールド内の誰かが赤の信号旗を振る。	2.21.4
8	<p>プレ・フライヤー</p> <p>選手権における公式プレ・フライヤーは、最初の競技ブリーフィングで知らされる。プレ・フライヤーには、その土地を熟知した経験のあるパイロットで、選手権におけるその任務の重要性を理解している人があたる。選手であってはならない。</p> <p>競技の中断時間が___時間以上のときは、再開に先だってプレ・フライヤーが飛ぶ。このような飛行を終った後、常に得られた情報を離・着陸地点にいるすべてのパイロットに直接伝える。</p>	8
9	得点計算	
9.1	<p>個人の得点は、その選手が得たすべての点数の合計である。5 回以上のラウンドが成立したときは、最悪の得点は除く。</p> <p>全ラウンドの合計点が最も少ないパイロットが勝者となる。</p> <p>女性については、4 か国から少なくとも8名のパイロット（世界選手権の場合）あるいは3カ国から少なくとも8名にパイロット（大陸選手権の場合）が参加したときは、女性クラスで金、銀、銅の個人メダルが FAI から授与される。</p>	<p>5.2.3</p> <p>2.4.4</p>
9.2	<p>ラウンドごとのチーム・スコアは、そのチーム（最大人数 X+2）のベスト Y スコアの合計である。ここで Y は通常 <math>(X+2)/2</math> で端数は切り上げる。</p> <p>チーム・スコアでは、最悪点の切りすてはない。</p> <p>Y の人数がない国では、不足人数に最大点が与えられる。</p>	<p>5.2.4</p> <p>5.2.4.1</p>
9.3	ラウンドが終わったら、レコーダーはできる限り速やかに主掲示板にスコアを掲示する。それには Provisional と表示し、時間と日付を明記する。この暫定スコアにコンプレイント(不服申立)するにはスコア掲示後___時間以内に提出しなければならない。	5.2.6
9.4	<p>ペナルティ</p> <p>競技委員長により課せられるペナルティを明記する。</p>	5.3
10	ジャッジング	
10.1	<p>ジャッジング・チーム</p> <p>チーフ・ジャッジとイベント・ジャッジは、ジャッジング・コードに合致し、選手権オーガナイザーと協議のうえ少なくとも選手権開始3カ月前に CIVL により指名された有資格者である。いずれも国際パラグライディング・アキュラシー競技でジャッジの経験を持ち、少なくとも1名は現在パラグライディング・アキュラシーのパイロットでなければならない。</p>	13.2.2

FAI スポーティングコード-S7C 2012年5月1日

10.2	チームには、さらに7名の適任者と2名の交替要員を準備しておく。要員の出身国は特に規定されないが、ターゲット地点には、常時少なくとも2か国を代表するジャッジが配置されていなければならない。	13.2.1
10.3	トウイングの場合、1名のジャッジが各パイロットのフライトを観察し、トウラインからのリリースに特に注意する。	
11	安全	
11.1	<p>安全委員会</p> <p>安全委員長(Safety Director)を指名する。最初のブリーフィングで、安全委員会を編成する。この委員会には、競技委員長(または副)、ランチ・マーシャル(または副)、ジャッジング・チームの上位メンバー、少なくとも2名の経験を積んだ参加選手(うち1名は外国選手)を含めることが望ましい。</p> <p>安全委員長の責任は、すべての安全面に注意することである。その中には、以下の事項がある：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各安全ブリーフィングで選手に話しをする。</li> <li>・ すべてのパイロット・ブリーフィングへ参加</li> <li>・ 気象条件、特に離着陸場における風速のチェック</li> <li>・ パイロット・セパレーションのチェック</li> <li>・ 不安全な装備での離陸防止</li> <li>・ 事故報告の収集</li> <li>・ インシデントについてスチュワードと討議し、結果をパイロット・ブリーフィングで伝達する。</li> </ul> <p>安全委員長は競技委員長と協力して、安全上の理由で競技を中止することができる。その決定は、すべて陪審長に報告する。</p>	2.6.3
11.2	<p>緊急対策</p> <p>競技中は、英会話のできる救急医1名と器材を積んだ救急車1両を準備する。救急車が病院に到着するまでの時間を示しておく(病院の場所と専門医についても)。</p> <p>ヘリコプターは必ずしも必要ではないが、もし準備できるのであれば空輸時間等についても併記する。</p>	2.6.5
12	<p>大会実施上の諸規則</p> <p>パイロットが順守すべき国内法および航空法規を明記する。</p>	2.15.1
12.1	<p>無線機</p> <p>法律で許される無線機のタイプ、オーガナイザー、緊急サービスなどが使用する周波数、個々のチームに割り振られる周波数を明記する。無線機は、選手とチームリーダーとの間の交信に許される。競技を有利にするためまたはコーチのために使用してはならない。無線機その他の交信手段は、緊急時を除き、競技飛行中に使ってはならない。オーガナイザーにより割り当てられた周波数だけを使う。公式周波数と安全周波数は、最初のパイロット・ブリーフィングのときに発表す</p>	2.18.1

FAI スポーティングコード-S7C 2012年5月1日

	る。	
12.2	管制空域、飛行禁止区域、着陸場、要注意区域(自然保護等)を明記する。	2.23
13	<p>コンプレイント(不服申立て)とプロテスト(抗議)</p> <p>コンプレイントとプロテストは、Section7C と総則に従って扱う。コンプレイントは競技委員長か副委員長に、できればチームリーダーが行う。それはなるべく速やかに行い、迅速に処理されなければならない。</p> <p>結果に満足できないときは、チームリーダーは競技委員長か副委員長に文書でプロテストする。プロテストの提出は、コンプレイントの結果が出てから___時間以内とする。抗議料は 50 ユーロで、受け入れられたときは返却される。</p> <p>もし暫定結果が日没後2時間以上の後かつ翌日の午前 6:00 以前に掲示された場合には、コンプレイントの申し立て期限は午前 8:00 とする。</p>	14.2
14	<p>フリーフライヤー</p> <p>フリーライニングについての方針は最初のブリーフィングのときに発表する。しかし、毎日の競技ラウンド中だけでなく競技中断中もフリーライニングは許されない。</p>	

選手権参加申込書サンプル

チーム・エントリー \_\_\_\_\_ (選手権名、月日、場所、国名)

NAC の名称 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

Tel/Fax \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ 国の NAC は、FAI の定める国籍または在住規定（総則第 3.7 項）の資格を有する  
下記選手を参加させたく申し込みます。

氏 名	国籍/居住地	年齢	性別	スポーティング・ ライセンス No.	CIVLパイロット ID No.	パイロット証 IPPI カード
選手						
チーム・リーダー						
同行者						

- ・ 保険書類には、必要に応じ英文表記のものを添付。
- ・ 緊急連絡先氏名および電話番号(例:近親者)
- ・ 医療関係情報(血液型、アレルギーなど)
- ・ 競技中の連絡先と電話番号

参加できる最大グライダー数 \_\_\_\_\_ 機、ただし各クラス共 \_\_\_\_\_ 機を超えないこと。

参加費 各パイロット (金額を記入) \_\_\_\_\_  
 各アシスタント (金額を記入) \_\_\_\_\_  
 チームリーダー (金額を記入) \_\_\_\_\_  
 同行者 (金額を記入) \_\_\_\_\_  
 計 \_\_\_\_\_

上記金額を同封/FAI に直接(第 7.1.3 項参照)/ \_\_\_\_\_ 日までに支払

上記の内容は真実で、参加パイロット全員が大会参加に必要な Section7 の第 5.11 項規定の資格を有することを証明書を添えて申告します。

NAC 代表の署名が必要

署名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ NAC 役職 \_\_\_\_\_ 日付 \_\_\_\_\_

保険：以下に記述する額面の有効な保険を所持していることは各選手の責任である：

- ・第三者賠償責任保険金額.....
- ・個人的な傷害/入院/救援者保険金額.....

以下の保険は、会場到着時にオーガナイザーを通して契約することができる：..... (詳細)

選手は飛行前に以下の保険証書をオーガナイザーに提示する：..... (詳細)。

広報宣伝:各パイロットとチームリーダーのパスポートサイズの写真と簡単な経歴をこの参加申込書に添えるか、遅くとも選手登録のときに提出する。

グライダーの耐空性：追補 B の宣誓書にパイロットおよび保証人が署名、プロトタイプの場合は、第 12.1.2.4 項で指定された書類を提出する。

免責：開催国においてそれが法的に効力を持つのであれば、追補 C の法的権利放棄書にパイロットおよび保証人が署名し、登録時に提出する。

-----  
宛先 ..... (オーガナイザーの詳細)

参加費

各パイロット——男性 (金額) \_\_\_\_\_

各パイロット——女性 (異なる場合) \_\_\_\_\_

チームリーダー (金額) \_\_\_\_\_

同行者 (金額) \_\_\_\_\_

合計 \_\_\_\_\_

早期支払の割引と支払締切日

遅延支払の割増と最終支払締切日

支払の詳細：

通貨/受入可能小切手、銀行送金の詳細など \_\_\_\_\_

参加費には以下の費用を含む：

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_



### 耐空証明のあるグライダー宣誓書

私、下記署名人、は\_\_\_日から\_\_\_日まで開催の\_\_\_\_\_選手権において私が使用する  
クラス\_\_\_のグライダー\_\_\_\_\_（メーカー名）式\_\_\_\_\_型は国際的に認められた認  
証機関（即ち DHV、AFNOR または SHV）によって耐空性が証明されていることを申告します。更に  
グライダーは証明された形の状態にありその構造を変更することは致しません。私のグライダーの耐空  
性維持に関してはすべて私個人の責任に帰することを了解します。

署名日付： \_\_\_\_\_

参加者サイン： \_\_\_\_\_ 参加者氏名： (活字体) \_\_\_\_\_

参加者住所： \_\_\_\_\_

証人サイン： \_\_\_\_\_ 証人氏名： (活字体) \_\_\_\_\_

証人住所： \_\_\_\_\_

もしあなたのグライダーが耐空証明の無いモデルあるいは耐空証明を受けた形状でない場合には、こ  
の宣誓書に署名しないこと。

### 免責および法的権利放棄合意書

注意深く読むこと。これにより免責および法的権利の放棄となります。

1. 私は 200\_\_年\_\_から\_\_まで\_\_で開催される\_\_選手権に参加する者です（以下「選手権」）。当選手権および付随する活動（総称して「イベント」とする）に参加することにより固有の危険を含み、危険なものとなり、身体的傷害または死亡に遭遇することを認識しています。私は選手権または練習日に直接参加することにとどまらず、制限された地域に入り、大会に直接かわりのない人とエリアの施設を共用し、イベント開催場所であるいはその間を移動することによって発生するリスクを明白に負うものとします。それらすべてのリスクにかかわらず私の任意で大会に参加することを選びます。（イニシャル\_\_）
2. イベント参加の許可を受けることに鑑み、大会オーガナイザー、\_\_\_\_NAC、開催地域の地主（テイクオフ場およびランディング場を含む）、FAI、その\_\_\_\_委員会、それらの附属組織、代理人、役員、幹部、所有者、委員会委員または審判員、コントラクター、ボランティア、従業員、保険会社（総称して免責人）を私が死亡を含む身体的損傷、イベントに起因してこうむる所有物の損害に対して起こすいかなるあるいはすべての請求から免責し無害とすることに同意します。私は免責人を告訴しないことを約束し、もしイベント参加中に誰かが身体的損傷または所有物の損傷を受けても免責人に対してクレームや訴訟を申し出あるいは提出する権利を保持しません。この第 2 項の規定は意図的あるいは無謀に行われたと判断される違法行為には適用されません。（イニシャル\_\_）
3. 免責および法的権利の放棄は、当事者または当事者間のいかなる他の協約または陳述にも優先することとし、\_\_\_\_の法によって裁決される。この文書は可能な限りあまねく解釈されることとします。私はいかなる法的決定においても唯一の裁判権および裁判の場所は\_\_\_\_法廷にあり、その法廷は人的司法権を備えていることに同意します。（イニシャル\_\_）。
4. この合意書のいかなる箇所でも適用される法律のもとで無効と決定されたとしても、他のすべての箇所に全実行力と効力が与えられ、効力がないと決定された箇所がかかわる範囲に関して法の許す限りここに述べられている趣旨に沿って施行できるよう完結されることとする。（イニシャル\_\_）。

私はこの文書を注意深く読みその内容を完全に理解しています。これは免責および法的権利の放棄であることを承知し私の自由意志に基づいて署名します。

署名日\_\_\_\_\_

参加者署名\_\_\_\_\_

参加者氏名（活字体）\_\_\_\_\_

参加者住所\_\_\_\_\_

証人署名\_\_\_\_\_

証人氏名（活字体）\_\_\_\_\_

証人住所\_\_\_\_\_

## サンプル・ローカル・レギュレーションの追補D

## FAI カテゴリー1 パラグライダー・アキュラシー選手権におけるプロテスト・フォーム

選手権名	
チームおよびチームリーダー	
プロテスト者	
コンプレインの結果を受領した時刻	
プロテストの詳細（どの結果、どのペナルティに対して？）	
決定が間違いであると考え理由	
このプロテストでどのような結果を要求するの？	
論争に関連するルールは何か？	
証人がいる 証拠がある (証人の陳述)	
プロテスト者の署名	
チームリーダーの署名	
プロテスト提出の日時	
プロテストを受領した競技委員長の署名	
プロテスト・フィーの支払い	

## 10 危険状態のパイロット援助の指針

パイロットはランディング後直ちにグライダーをたたむこと：グライダーを地上に広げておくことは「助けてくれ！」を意味する。事故を目撃したパイロットは緊急無線を通じてできるだけ早くオーガナイザーに通知する。パイロット全員が救急資格を備えていることが望ましい。

救援を呼ぶ場合は「メイデイ、メイデイ、メイデイ」とし下記詳細を告げること：

- ・ 事故の内容と発生場所
- ・ 遭難者の位置
- ・ 事故報告パイロット氏名
- ・ 遭難したパイロットおよびグライダーの詳細

### 10.1 競技中の救援活動

#### 10.1.1 目的

- ・ 遭難したパイロットを救援しようとするパイロット達に必要な事柄のリストを提案する。
- ・ オーガナイザーに救援活動の手順を提案する。

このリストは、助けを提供したパイロットに補償点(compensation)を考慮する際にオーガナイザーおよび陪審の参考になるものである。

#### 10.1.2 大会本部の任務

- ・ 競技フライトコース全域をカバーする無線の手配
- ・ 負傷したパイロットおよび救助に向かうパイロットについて正確で正しい判断を下す
- ・ 事故現場と連携をとりながら救急隊を派遣
- ・ 救急隊にすべての情報を伝達する（負傷者の状況、場所等）
- ・ 部外者から要請があった場合（必要と思われる場合）は救援活動を中止する

#### 10.1.3 負傷パイロットの義務

動けるようであればパイロットは：

- ・ 事故場所の特定を容易にするため、適当な目標物を見つけ、自分の高度および GPS 座標を知らせる
- ・ 無線または携帯電話（無線のほうが望ましい）を使って大会本部と交信する
- ・ 呼びかけ通話では「私の名前は\_\_\_\_、選手番号\_\_\_\_

#### 10.1.4 事故目撃パイロットの任務

可能な限りパイロットは：

- ・ 本部に連絡をとり次のように伝える：どこそこで発生した事故を目撃
- ・ 事故者のグライダーは\_\_\_\_で色は\_\_\_\_です
- ・ 事故者の近くにランディングすることはできる・できない
- ・ 私がやるべきことは？
- ・ 可能な場合、事故者の名前は\_\_\_\_選手番号\_\_\_\_、話をできるのか、動けるか

#### 10.1.5 本部の決定を待ち、その後：

近くにランディングするか、より正確な位置を把握するために事故場所の近くの空中で待機するか、タスクフライトを続行する。

#### 10.1.6 本部と無線連絡がとれないとき

- ・ 火炎信号を投げる

- ・ 近くに他のパイロットがいるか交信可能のとき、地上電話近くにランディングして本部に連絡するよう依頼し、自分は救援活動の進行状況を負傷パイロットに伝達するために最も良く連絡できる範囲にとどまる。
- ・ 1人だけのときは、付近や衝撃の状況、負傷パイロットの推定される状態に応じてその近くにランディングすべきか電話の近くにランディングすべきかを判断しなければならない。

#### 10.1.7 負傷パイロットに到達後、本部に伝えるべき情報

- ・ 負傷パイロットへの到達方法、近くの道路までの距離、樹木、傾斜、崖、など
- ・ 負傷したパイロットの状況：意識があるかないか、脈拍、呼吸、動けるかどうか、開放骨折・内部骨折、内出血・外出血、など

#### 10.1.8 負傷パイロットの保護と救助

- ・ 自身の怪我に注意、確実に安全確保できる場合にのみランディングする。
- ・ 負傷パイロットには静かに接近すること。できれば横からあるいは落石を避け下から近づく。
- ・ 足場を確保

#### 10.1.9 発見後

救急隊が負傷パイロットの位置を特定できたら、ヘリコプター到着の場所を準備し（グライダーをたたむ）、負傷パイロットを保護する：

- ・ 動かさないこと。
- ・ 体温が下がっている場合は何かで覆う。
- ・ 無意識でも話しかける。
- ・ 致命的な身体的機能（脈拍、呼吸）が機能しているか確かめ、看護に精通していない場合はそっとしておくこと。
- ・ 選択肢が無いときは人工呼吸、心臓マッサージを考える。

## 11 参加者の態度に関する指針

### 11.1 指針

これは CIVL 公認大会における CIVL 代表者、大会役員および他の参加選手に対する競技参加者の行いや態度の良し悪しを判定する際の指針である。

ここで競技参加者とは選手、チームリーダーおよび地上のクルーをいう。CIVL 代表者とはスチュワード、陪審、あるいは技術指導員である。他の大会役員も、この趣旨から CIVL の代表と考えてよい。

一般に実際のルールの適用や判定は一人あるいは複数のパイロットの得点に悪影響を及ぼす。それらのパイロットやチームリーダーあるいはそのチーム・メンバーがそれらの判定によって怒るかもしれない。

このような判定に関して論争や反対が予想されるのは当然であるが、汚い言葉や大声でまくし立てることは許されることではない。

更に身体に対する攻撃や脅威（殴る、蹴る、つばを吐きかける）はまったく許されるものではない。

下記の指針はそのような攻撃的な態度に対処するためのものである。

### 11.2 手続

事故の詳細を大会終了後できる限り速やかに CIVL ビューローに提出する。目撃者がいるときはその氏名と住所を報告書に記載する。CIVL ビューローまたは指名された委員会が報告書を検討、調査し必

要に応じて下記の手続きをとる。

### 11.3 軽度の反抗

軽度の反抗とは役員に対してやや荒い言葉を使ったり、怪我にならないような物（液体、紙、ごみ等）を投げつけたりした場合をいう。

罰則（厳格度順に）

- ・ 違反者および違反者が所属する NAC に CIVL から懲戒文書が送られる。
- ・ 違反者は攻撃を受けた役員に謝罪文を送ることとし、それまでは次に開催される CIVL 公認大会への参加は許可されない。

### 11.4 重度の反抗

この種の反抗には過度に汚い言葉を発し、こぶし、足、他の体の部分や固形物（棒、石等）で役員を殴ったり身体全体を攻撃する（蹴飛ばしたり押し倒したりする）ことが含まれる。

#### 11.4.1 罰則（厳格度順に）

軽度反抗に対する罰則に加えて次の罰則も適用することとする。

- ・ 違反者には競技での獲得点数が減点される。違反者がチームリーダーの場合はチーム全体の総合点から減点される。
- ・ 違反者は CIVL 公認の大会から終身を含めての一定期間出場を拒否される。

競技委員長はパイロットが役員あるいは他の選手に対して身体的攻撃を加えた場合、そのパイロットを直ちに追放するか失格とする権限をもつ。

悪態行為はスポーツマンらしくない行為とみなされ相応の扱いを受ける。同様に CIVL 役員においてもそのような行為はプロらしくないものと判断され、上記と同様の扱いを受ける。

罰則としてスチュワード、陪審、ジャッジ、技術指導員の登録者名簿から削除される。

## 12 装備の安全基準および証明書類

### 12.1 パラグライダーおよび関連装備品

#### 12.1.1 パラグライダーその他

選手が持ち込むグライダーおよび関連装備品は、競技に適合した性能と規格のものでなければならない。

#### 12.1.2 競技用グライダー

##### 12.1.2.1 クラス

グライダーは、クラス 3 のハンググライダー（即ちパラグライダー）であること。

##### 12.1.2.2 耐空性

グライダーは国際選手権の要件に適合する十分な性能と耐空性基準のものでなければならない。このことはパラグライダーを持ち込ませる NAC が、CIVL 承認のテスト機関が発行するパラグライダー証明書またはプロトタイプ証明書に基づく耐空証明書または声明書を提出することによって確認される。プロトタイプの証明書には、荷重試験およびメーカーとテスト機関の署名入りのライン仕様についての宣言書がなければならない。第 12.2 項“パラグライダー・ライン証明書”参照。

オーガナイザーは承認できない基準や構造のグライダーを拒否する権限を持つ。特定のパラグライダー・アキュラシー選手権において CIVL は別の様式の書類を承認することがある。

### 12.1.2.3 構造

CIVL 承認のテスト機関発行の証明書を持つグライダーは、いかなる形においてもその構造を変えることができない。証明された構造から少しでも改造されたグライダーまたはテストを受けていないグライダーはプロトタイプとして扱われ、第 12.1.2.4 項の要件に従わなければならない。

### 12.1.2.4 プロトタイプ・グライダーの判別と必要書類

グライダーには判別のための製造番号がなければならず、パイロットは次の書類を用意しなければならない。

- ・ 指名パイロットがプロトタイプを使用する場合のメーカーによる同意書
- ・ CIVL 承認のテスト機関によるプロトタイプ証明書。これには荷重試験およびメーカーおよびテスト機関が署名したライン仕様についての宣言書がなければならない。第 12.2 項 “パラグライダー・ライン証明” 参照。
- ・ CIVL が認める基準に適合していることを保証するメーカーの証明書。

### 12.1.3 グライダーの構造

選手権中を通して初日と同じ基準の構成部品を使用した一つの一体とした1機のグライダーを使用しなければならない。このルールは大修理をした場合に適用される。(第 12.1.4 項グライダーの損傷を参照)

### 12.1.4 競技グライダーの損傷

グライダーに重大な損傷が生じたときは、遅滞なくオーガナイザーに報告しその上で修理を行ってもよい。交換部品は損傷前の仕様とまったく同一のものでなければならない。損傷、紛失または盗難などパイロットの責任外の理由でグライダーを一時的にまたは終了まで取り替える許可が競技委員長から出た場合、同一メーカーによる同型のものまたは同程度の性能のものに取り替えることができる。

### 12.1.5 耐空性のチェック

オーガナイザーおよび FAI 役員は選手権開催中いつでも、競技に参加しているグライダーを検査し、安全性確保のために必要と思われたときはフライトを禁止する権限を持つ。また彼らは、クラスあるいは耐空性規準に適合していないことに対し、このルールおよびローカル・レギュレーションに記載されているその他のペナルティを課すことがある。

### 12.1.6 チェックの手順

競技用パラグライダーのマイクロラインの強度問題に対応するため下記の手順が制定された。グライダーのライン構造が耐空証明の仕様に適合するキャノピーであれば1種類の証明書で各種のキャノピーに適用される。

型式が証明された量産型パラグライダーにはこの手順を適用する必要はない。

- ・ 所定（競技用）パラグライダーのプロトタイプの場合、メーカーが下記第 I 項の欄にライン仕様を正確に記載する。
- ・ 検査機関（AERO-TESTS、DHV/OeAeC、SHV 等のパラグライダーテスト機関）は静的及び動的荷重試験を通常の型式試験と同じ方法で行う。

### パラグライダーが試験に合格した場合

- ・ 検査機関はプロトタイプのライン構造が第 1 項のライン仕様に適合しているかどうかを検査し、試験の確認結果を第 II 項に記載する。
- ・ 検査機関は確認書のコピーを保存し原本をメーカーに返却する。
- ・ 検査したライン構造に合致するグライダーについてはメーカーが原本のコピーをとり、製造番号を

つけて第Ⅲ項で適合承認する。

- 各パラグライダーには正式な“パラグライダー・ライン強度証明書”を添付して引き渡す。

## 12.2 パラグライダー・ライン強度証明書

### I. 型式仕様書

メーカー名

	メインライン	ミドルライン(1)	ミドルライン(2)	トップライン
ライン型式名称				
直径				
無縫合破断強度				
芯材				
被覆材				
ライン長さ単位当り質量				
芯長さ単位当り質量				
A ライン本数				
B ライン本数				
C ライン本数				
D ライン本数				
スタビライザーライン本数				

### II. 検査機関による確認

上記記載のグライダーは次の規格に従って荷重試験を完了したことを確認します。

#### 1 EN 926-1

#### H ドイツ・オーストリアグライダー構造規格

最大離陸重量\_\_\_kg に適応した上記基準に合格する。

場所： 日付： 署名：

### III. メーカーによる確認

グライダー\_\_\_型、製造番号\_\_\_は上記ライン仕様に基づいて製造されたことを確認します。  
このグライダーの耐空性能に悪影響を与える状況については確認していません。

場所： 日付： 署名：

## 12.3 その他の装備

### 12.3.1 ハーネス

カテゴリー1のイベントに参加する全選手は EN1651、LTF09 あるいは LTF03 に認証登録されたハーネスで飛ばなければならない。ハーネスのタイプおよび認証は、大会オーガナイザーに予め登録されなければならない。ハーネスには LTF09 あるいは LTF03 に認証登録されたバック・プロテクションが装備されているか、その適性を競技委員長が判断する最小厚さ 12 cm の適切なバック・プロテクションが装備されていなければならない。この最小厚さはハーネスのカーブの中心を通る水平線の上下に 15



cm (カーブの内側で測定する) の範囲まで伸びていなければならない。

### 12.3.2 ヘルメット

カテゴリー 1 のイベントに参加する全選手は、飛行中は常に EN966 に認証登録されたヘルメットを装着しなければならない。

## 13 ジャッジング

### 13.1 ジャッジング・コード

これは FAI カテゴリー 1 およびカテゴリー 2 のパラグライディング・ランディング・アキュラシー大会におけるジャッジのためのコード(規準)である。ジャッジおよびジャッジ・チームの主な仕事は、測定及び記録を通して選手の成績の公平な判定結果を提供することである。ジャッジは、選手のフライトを観察し、自分自身のみで判断しなければならない。指名されたジャッジ全員にこのジャッジング・コードが渡され、これを忠実に守らなければならない。

### 13.2 ジャッジング・チーム

ジャッジは選手を観察し、記録し、成績を計測する資格を与えられた大会役員(official)である。ジャッジは、高潔な人格で、公正で、偏らない判定をすることができなければならない。

#### 13.2.1 構成

ジャッジング・チームは少なくとも以下の人数のジャッジで構成されなければならない。FAI カテゴリー 2 の大会では推奨される最小限のジャッジング・チームを設置しなければならない。

ジャッジ	FAI1 (およびプレ FAI1 大会)	FAI2 (最小限)
チーフ・ジャッジ	1	1
イベント・ジャッジ	1	(1) 参加選手 50 人まではイベント・ジャッジとチーフ・ジャッジは兼任できる。
ターゲット・ジャッジ	3	3
合計	5	5(4)
予備	最小限フィシエ・ジャッジ×2	最小限フィシエ・ジャッジ×1
活動中のフィシエ・ジャッジ + イベント・ジャッジの国構成	最小限 3 カ国	海外からの選手が 25% を超える場合には最小限 2 カ国
チーフ・ジャッジおよびイベント・ジャッジの国構成	別々	特に無し

#### 13.2.2 指名

ジャッジング・チームのメンバーは以下の様に指名される：

ジャッジ	FAI カテゴリー 1	FAI カテゴリー 2
チーフ・ジャッジ	オーガナイザーと協議のうえ FAI が指名	オーガナイザーが指名
イベント・ジャッジ	オーガナイザーおよびチーフ・ジャッジと協議のうえ FAI が指名	チーフ・ジャッジと協議のうえオーガナイザーが指名
ターゲット・ジャッジ	チーフ・ジャッジと協議のうえオ	チーフ・ジャッジと協議のうえオ

	ーガナイザーが指名	ガナイザーが指名
--	-----------	----------

FAI カテゴリー 1 の大会に対しては、オーガナイザーはチーフ・ジャッジと協議して、遅くとも大会開始 2 か月前までにジャッジング・チームの構成員を公表しなければならない。

### 13.2.3 ジャッジング・チームの選考

ジャッジング・チームの構成員は、出来るだけ CIVL 国際ジャッジ・データベースに登録されている適切なレベルの経験を積んだ者の中から選考しなければならない。

### 13.2.4 経験レベル

FAI カテゴリー 1 大会におけるジャッジは以下の経験が無ければならない：

ジャッジ	要求される経験
ターゲット・ジャッジ	直近の 1 2 カ月に於いてジャッジ・トレーニングに参加しているか ジャッジ・トレーニングに参加してかつ過去 2 年間にターゲット・ジャッジを 2 回 (少なくとも FAI カテ 2 レベルの大会で) 行っている。
イベント・ジャッジ	ジャッジ・トレーニングに参加し <b>かつ</b> 少なくとも 4 回ターゲット・ジャッジを行 <b>いかつ</b> 過去 3 年間に少なくとも 1 回カテ 2 大会においてイベント又はチーフ・ジャッジを行っている。
チーフ・ジャッジ	ジャッジ・トレーニングに参加し <b>かつ</b> 過去 4 年間に少なくとも 2 回(少なくともその内の 1 回はカテ 1 大会とする)イベント・ジャッジを行 <b>いかつ</b> 過去 4 年間に少なくとも 1 回カテ 2 大会でチーフ・ジャッジを行っている。

FAI カテゴリー 2 大会におけるジャッジは以下の経験が無ければならない：

ジャッジ	要求される経験
ターゲット・ジャッジ	過去 2 年間にジャッジ・トレーニングに参加している <b>か</b> 過去 3 年間に 1 回ターゲット・ジャッジを行っている。
イベント・ジャッジ	ジャッジ・トレーニングに参加し <b>かつ</b> 過去 3 年間に 2 回ターゲット・ジャッジを行 <b>っているか</b> 過去 3 年間にイベント又はチーフ・ジャッジを行 <b>っている</b> 。
チーフ・ジャッジ	ジャッジ・トレーニングに参加し <b>かつ</b> 過去 3 年間にイベント又はチーフ・ジャッジを行 <b>っている</b> 。

### 13.2.5 言語能力

FAI カテゴリー 1 大会：ジャッジ用公式言語は英語である。ターゲット・ジャッジはその観察及び決定を英語で伝えられなければならない。そうでない場合は通訳がいなければならない。イベント・ジャッジおよびチーフ・ジャッジはブリーフィング、指示、報告を英語で出来なければならない。

FAI カテゴリー 2 大会：公式言語は主催国のものでも良いが、その場合は通訳がブリーフィングおよびジャッジ判定を英語で行う。

### 13.2.6 指名の取り消し

ジャッジはこのジャッジング・コードの規準を維持できないあるいは大会中不品行であると判断された場合はチーフ・ジャッジによりその指名を取り消される。

### 13.3 責任

#### 13.3.1 ターゲット・ジャッジ

ターゲット・ジャッジチームは少なくとも 3 人のメンバーから構成され、その配置はチーフ・ジャッジが決定する。

- ・ターゲット・ジャッジは、選手の最初の着地点を観察する。
- ・自動計測装置の不具合が判明し、最初の着地点がその上であったときは、ジャッジが手作業で計測する。
- ・少なくとも 1 人のターゲット・ジャッジは選手の最初の接地が左足、右足あるいは両足であるかの判定をする。
- ・少なくとも 1 人のターゲット・ジャッジは選手がフォールした場合にその合図（片側の腕を頭上に伸ばす）をする。
- ・最初の着地点が自動計測装置から外れているが測定フィールド内のときは、ターゲット・ジャッジは推定着地点をマークし、計測する。
- ・ジャッジは、最初の着地点が同時に 2 か所以上と判断したときは、最も遠い点を計測する。
- ・計測を終わったら、コーラーとして指名されていた 1 名が、レコーダーにスコアをコールする。レコーダーは、スコアを復唱する。
- ・4 人以上のターゲット・ジャッジが働いている場合、以下の合図を使用する。

フォールの合図：片側の腕を頭上に伸ばす

左又は右足の合図：左又は右の腕を肩の高さで身体に対し直角に伸ばす

両足接地の合図：両腕をウエストの高さで身体の前方に伸ばす

#### 13.3.2 イベント・ジャッジ

イベント・ジャッジ (EJ) はジャッジ・チームのチームリーダーで以下の責任を負う。

- ・ランディング・エリアの設置状況の確認
- ・ターゲット・エリアにおけるスムーズな進行
- ・ジャッジ 1 名のための臨時交替要員名簿を作成
- ・またエリア内のだれかの役を交替する
- ・空中および最終進入時における選手のセパレーションを監視
- ・選手のテイクオフからランディングまでのフライトルートの監視

イベント・ジャッジは、条件が危険になりつつあると判断したときは、チーフ・ジャッジと競技委員長の意見も聞いた上で競技を一時中断する権限を持つ。イベント・ジャッジは、大会の練習ラウンドの前にジャッジング・チームおよび支援役員に対し準備のミーティングを開催する。

#### 13.3.3 チーフ・ジャッジ

チーフ・ジャッジの責任は以下のとおり。

- ・ジャッジング・チームの全員が正しい基準でジャッジしていることを確認する。
- ・成績表を確認しラウンドの得点が有効であることを承認し署名する。
- ・競技開始に先だってジャッジ全員を集めブリーフィングする。
- ・所要の機材がそろっていて、使える状態にあることを確認する。
- ・選手のすべてのブリーフィングに出席し、要すれば自らブリーフィングする。
- ・ターゲットのジャッジング・チームが常に決められた国構成になっているか確認する。
- ・競技中、ジャッジとその役割についての記録を取り、その情報を CIVL に提供する。

- ・競技の一時中止の要請があったときは、速やかに競技委員長と話し合う。
- ・2.6.7 項に従ってビデオによる確認を決定する。

チーフ・ジャッジは大会の練習ラウンド中にジャッジ・トレーニングを行っても良い。

#### 13.3.4 危険な状況の合図

ターゲットにおけるコンディションが危険になった場合は、チーフあるいはイベント・ジャッジの指示により誰かが赤旗を振る。もし赤旗がすぐに手に入らない場合は、パッドの上で手を振るかジャッジ用ベストを振る。この合図はターゲットはクローズされ選手はターゲット外にランディングせよとの指示となる。

### 13.4 ジャッジ用装備

#### 13.4.1 ウェアー

ターゲット・ジャッジは非常に目に付く色(赤、黄色...)のウェア(ベスト、Tシャツなど)を着なければならない。

#### 13.4.2 メジャー

ターゲット・ジャッジは、選手の最初の接地点をマークするため、しかし他の選手のランディングの妨げとならないようなマーカーを所持していなければならない。メジャーは測定フィールドの半径と同じ長さでなければならない。

#### 13.4.3 通信

オーガナイザーは、競技委員長、チーフ・ジャッジ、イベント・ジャッジ、テイクオフ・マーシャル間の連絡用に通信機器を用意しなければならない。

#### 13.4.4 避難所

オーガナイザーは、ジャッジおよび支援役員用に避難場所及び飲み物を提供しなければならない。

### 13.5 支援役員

オーガナイザーは以下の支援役員を用意しなければならない。

#### 13.5.1 レコーダー

レコーダーはターゲット・ジャッジのコールを英語で復唱し、公式ログシートに選手のスコアを記録する。そのスコアに選手のサインをとる。

レコーダーは、ラウンドの開始、終了および中断時間をログシートに記録する。

#### 13.5.2 風速モニター

風速モニターは、風速測定装置を用いて、選手の着陸前 30 秒間の風速を計測する。最大値を超えた場合、用意された公式ログシートに記録しイベント・ジャッジに伝達する。選手のランディングに先立つ 30 秒の間に最大風速を超えた場合にはイベント・ジャッジに伝達し、イベント・ジャッジはリランチを提供する。

風速の合図および記録は自動測定装置によることも可能。

FAI カテゴリー 2 大会に於いては、風速計測は簡素化して機械式風速計を使用することも可能だが、強風となった場合に観測員を貼りつかせ風速を継続的にイベント・ジャッジに伝達させなければならない。

#### 13.5.3 テイクオフ・マーシャル

テイクオフ・マーシャルはテイクオフのスムーズな運営に責任がある。彼の任務は：

- ・テイクオフをオープン/クローズする
- ・選手に準備を促す
- ・フライト順に従って選手がテイクオフする許可を出す
- ・特別な場合、例えば・ランチ、にフライト順に従わずに選手にテイクオフする許可を出す
- ・フライト順リストに従って各ラウンドの全選手のテイクオフを記録する
- ・フライトコンディションおよび大会運営に関してチーフ・ジャッジおよび競技委員長と協議する。
- ・安全および資材調達に関してテイクオフにいる選手と協議する

テイクオフ・マーシャルは現地の気象およびフライトコンディションに関する知識と経験が無ければならない。

### 13.6 ジャッジ・トレーニング

ジャッジ・トレーニングは大会オーガナイザーあるいは NAC により主催され費用が賄われる。講師は CIVL により指名された上級ジャッジである。基金が受けられるなら講師の交通費は CIVL が賄うことができる。

#### 13.6.1 プログラム

ジャッジ・トレーニングは以下のプログラムから構成される。

- ・FAI、CIVL、FAI1、FAI2 大会の説明
- ・S7C および関連する総則の章の概覧
- ・質の高い大会とするためのジャッジの役割の重要性
- ・ターゲット・エリアのセッティング
- ・ジャッジング・コード
- ・判定をする状況と決定
- ・実地訓練

実地訓練は実際のサイトでパイロットがランディングして実施するのが望ましい。

### 13.7 ジャッジ・データベース

ジャッジ・データベースは CIVL 情報システムの中に設置され保管される。セミナーに参加したり大会でジャッジとして指名された全てのジャッジはジャッジ・データベースに記録される。オーガナイザーおよびチーフ・ジャッジは活動したジャッジのデータを収集し CIVL に提出する責任がある。

#### 13.7.1 ジャッジ・ログブックおよびデータベースのチェック

全てのジャッジはログブックを付け CIVL ジャッジ・データベースの内容が更新されているかを確認しなければならない。チーフあるいはイベント・ジャッジは大会終了時にジャッジ・ログブックに署名しなければならない。

## 14 抗議(プロテスト)申立準備

「CIVL 陪審およびスチュワードハンドブック」の最新版に、カテゴリー1 選手権で抗議申し立てがあった場合の手順に関する詳細な指示が記載されている。ここで述べていることは抗議申し立てをするチームリーダーまたは個人への手引きである。

### 14.1 ルールの優先順位

- ・FAI 総則

- Section 7 即ち本書
- ローカル・レギュレーション
- 施行済みの規則に影響を及ぼしたと思われる補足的通達
- 

#### 14.2 手順

抗議申立書を提出するときは、それまでに大会委員長宛にコンプレイント(不服)を申し出て問題の救済策を得ようと努めていなければならない。コンプレイントが解決されたときにはこの手順はすでに終了で、もしそうでない場合に抗議申し立てに進むこととなりその提出期限については抗議申し立て費用の金額とともにローカル・レギュレーションに明記されている。大会委員長は抗議申立書を受け取った時刻を記録し遅滞なく陪審長に提出する。抗議申立書はパイロットに代わってチームリーダーが提出する。チームリーダーがその抗議に同意しない場合も同様である。パイロットがチームリーダーを持たない場合は自身で提出してもよい。

抗議申し立ては英文による書面で抗議料を添えて行う。抗議が受け入れられた場合費用は返却される。申立書は選手権の名称、申し立て本人の氏名と国籍を頭に記載する。

抗議は何に対してなのか、例えばルールを破ったという判定に対してとか、違反に科せられた罰則(減点、ゼロ点、DSQ - 失格、等)に対して、というように明確でなければならない。オーガナイザーに対する一般的な不満は当たらない。

上記の 2 例の両方、例えば「私は規則 # # に違反したという判定に抗議する。また、規則に違反したとしても科せられた罰則は厳格すぎると思う。」というように同時に申し立てをすることもできる。

抗議にはどのような救済策を望むのか、またどの規則が適切と信ずるのかを明記する。

申立書の最後に署名、日時を添える。

抗議の対象が 2 件以上の場合は、陪審が理解しやすいように理由、説明などは別個に述べること。抗議内容の基本として下記を明記する(該当する場合)。

- A) 判定または罰則が正しくないと思ふ理由(主張に当てはまる規則がある場合その項目番号を引用)。例えば、他のパイロットが類似の状況で異なった扱いを受けたと思ふ場合。
- B) 自身の見解を支持すると思われる目撃者の氏名。
- C) 軽減措置として考えられる要因。

抗議を支持する目撃者がいる場合は可能な限りその旨の文書を入手して提出する。

#### 14.3 陪審の役割

陪審は抗議をできる限り速やかに処理する。これには目撃者からの聞き取り、大会委員長、他の役員、スチュワードからの証言集めが含まれる。競技を継続しながら行わなければならないので一人一人個別に面談することになる。陪審は証言を聴取した後で決定を下し発表するか、決定に至るまで更に彼らの間で検討することもある。決定がなされたらそれを書面にして陪審全員の署名を取り、コピーを陪審、大会委員長、抗議申立者に配布され、抗議書のコピーと共に公式掲示版に掲載される。

### 15 カテゴリー1 大会における表彰式

#### 15.1 序言

これまで FAI カテゴリー1 大会のオーガナイザーにとって表彰式をどのように実施するかについて明確な指針がなかった。その結果、それらの式のレベルはまちまちで、ときには話にならないほど粗末な

ものがあつた。そこで FAI カテゴリー1 大会表彰式の整合性を確保し、品位とプロトコール(国際儀礼)の最低水準を保証するための標準様式について合意し、それが以下に述べるプロトコールの基礎になった。

## 15.2 表彰式の手順

### 15.2.1 準備

・ 表彰台、FAI 旗、メダル獲得者の国旗、金メダル獲得者出身国の国歌、優勝チームの国歌などを前もって準備する。チームメダルの授与に於いて、大きい FAI メダルは NAC に対するもので通常チーム・リーダーに渡される。小さい FAI メダルはチーム・メンバーに対するものである。チーム・メンバーの数より多い小さいメダルが支給されていた場合、余ったメダルは FAI 陪審委員長に戻され処理される。表彰台は以下のように配列する

銀メダル：左側（観衆から見て）一高さは 2 番目（2）

金メダル：中央一最も高い（1）

銅メダル：右側一銀メダルと同じかやや低い（3）

国旗と国歌：オーガナイザーは参加した国の全ての国旗および国歌を表彰式に準備しておかなければならない。

オーガナイザー側のスタッフが受賞者を表彰台エリアまでエスコートする。

### 15.2.2 授与する順序

個人表彰に於いて、個人メダル獲得者が何度も呼ばれるのを避けるため（多くはチームメダルの表彰にも関わっている）表彰する順序は以下の様にする。

- ・ 逆順、つまり 10 位、次に 9 位... と 4 位までの選手に対し FAI 賞状
- ・ 逆順、つまり銅、銀、金の順で個人メダルと FAI 賞状

写真撮影のために適当に時間を取った後、選手はステージあるいは表彰台から退場し、次いでチーム表彰が行われる。これも逆順で、まず 3 位のチームが呼ばれ、次に 2 位のチーム、そして最後にチャンピオン・チームが呼ばれる。

### 15.2.3 手順

アナウンサーが表彰式の開会を伝え、次いで授賞するメダルのカテゴリーまたはクラス（該当するもの）を伝える。同時に受賞者が順番に表彰台エリアに入り、台の後ろに立つ。オーガナイザー側のスタッフが選手に添ってそれぞれが正しい表彰台の後ろに立つような順で案内する。

アナウンサーは、メダルおよび賞状の授与者名と肩書を発表する。それは FAI 会長、スポーツ委員会会長、またはその代理者またはその地方の有名人などが考えられる。

授賞者名またはチーム名と国名が個別に、また銅、銀、金の順序でコールされる。受賞者は呼ばれてから表彰台に上がる。

最初に銅メダル受賞者（またはチーム）が表彰台に立ってメダルを受け取る。次に銀メダル受賞者（またはチーム）がコールされ、表彰台に立ってメダルを受け取る。最後に金メダルが同じ手順で授与される。

各メダルが授与されるたびに写真撮影のための短い時間をとる。

全てのメダル授与を終わったら金メダル受賞者またはチームの国歌を演奏し同時に国旗を掲揚する（受賞者が国を代表していないときは FAI 賛歌を演奏する）。フラグポールは、1 位の旗は中央で最も高くし、2 位と 3 位は右と左にやや低くする。全ての旗はポールの頂点まで掲げる。ポールの高さはその場所に応じ掲揚式にふさわしい高さとする。

受賞者は団体写真を撮るため短時間ポーズし、その後台から下りる。

1.2.3 位の選手とナショナルチームは表彰式典に参加しなければならない。さらに全選手も参加することが期待される。

#### 15.2.4 FAI 賞状

FAI 賞状は総合成績の上位10人に授与される。したがって1, 2, 3位の選手はメダルと賞状の両方を授与される。

#### 15.2.5 付添い人

個人メダルあるいは賞状獲得者以外表彰台近辺に近寄ってはならない。チーム表彰に際しては、公式に登録されたチーム・リーダーだけがチームに付き添うことが許される。